

じますか如何ですか。

○河野 小選挙区になったら、議席が一つしかないわけだから、二つというわけにはいかないから、一つに収れんしていつちやうわけですよ。だから、ほかの意見というのはみんな切り捨てられちゃう。それが小選挙区の最大の失敗ですよ。

○紅谷 議長が内閣と対峙するような挨拶をされても、自民党も含めて各党から議長の発言がおかしいという指摘は一切ありませんでした。

○河野 いや、腹の中では思っていたかも知れないな。

だけれども、議長の後半、衆議院事務局で作られた挨拶文というのは、僕が直さなくても、しばしばそのまま読んでいました。挨拶については、僕だけでなく天皇陛下の御挨拶も、結構、そうだと思うような挨拶が多かったですね。天皇陛下の御挨拶の中に、国際社会との関係とか、戦争に対する反省とか、そういう言葉がちりばめられるようになってきて、それはとても、今の上皇陛下の挨拶はよかったですって、僕は感に堪えていますね。

○紅谷 いわゆる戦後六十年決議に關してですが、平成十七年八月に「国連創設及びわが国の終戦・被爆六十周年に当たり、更なる国際平和の構築への貢献を誓約する決議」という本会議決議を行いました。いろいろなタイトルをくっつけたような決議ですけども、河野議長の意向が非常に強かった決議だと記憶しています。

○河野 かなり記憶が薄れているけど、平成十七年というのは、終戦から六十年、被爆から六十年の節目の年で、村山内閣のときの戦後五十年決議は、野党の新進党が欠席し、自民党からも随分欠席者が出て、共産党は反対するという、国会決議としては不規則な形で行われたし、参議院ではとうとうできなかつたんだよね。

○紅谷 鈴木恒夫さんが、河野議長の意を受けて野党と調整して、五十年決議を想起しという文言を入れた案文で決議が行われました。

○河野 今更ながら、何か長つたらしくてまとまりがないけど、そういう思いがあつての決議でした。

○紅谷 当時の新聞記事には、河野議長の指示があつたとか、希望でと書かれています。

議長の権限、在り方という観点からのエピソードでした。

### 《第七十二代衆議院議長》

○紅谷 小泉郵政解散による総選挙は、当初自民党が過半数割れをするのではないかと言われていましたが、与党で議席の三分の二以上を獲得し、圧勝という結果になりました。

河野先生も、今までの選挙の中で最高の得票数で予想をはるかに超えたと述べられていましたが、どんな選挙だったのでしょうか。

○河野 僕は与党でも野党でも選挙をやり、ずっと当選はしましたが、そんなに楽な選挙をやってきたわけではないんです。そんな中で、この選挙は議長で選挙だったから余裕をもって、後にも先にもこのときばかりは、十七万票近くの票を取った選挙でした。

この選挙は、小泉総理で郵政選挙と言われ圧勝しました。ところが、その小泉さんが自民党の党則によって一年で辞めるんです。国民の圧倒的な支持を得た人が党のルールで辞めてしまう。ちょっと不思議な気がしました。

小泉さんの後を引き継いだ安倍さんは、次の参議院選挙でぼろ負けするけれども、参院選は政権選択の選挙じゃないと言って辞めななんです。僕から見ると非常に対照的で不思議でした。

○紅谷 郵政選挙で得た与党の三分の二という数は、後に参議院選挙で衆参がねじれ状態となったので、衆議院で再議決可能な数となり、大きな意味を持つことになります。

○河野 だから、圧勝したときに、これで何でもできるのかと何となく不安でした。小泉さんが辞めて安倍さんが総理になったのですが、自分が選挙をやったわけではなく、国民の支持が確認されないままに総理になって、しかも圧倒的な議席だから、ちよつとわがままというか独り善がりの政治になっていくわけです。強行採決をやったりして政治手法が強引過ぎるというのが、次の参議院選挙でしつぺ返しを受けるわけです。

ねじれ国会への序章になったという感じです。

○紅谷 選挙後の特別会では、河野議長が七十二代議長として再選されました。選挙を跨いで議長に再選されたのは平成では初めてでした。

議長の候補者として、中山太郎さんや野田毅さんの名前も挙がっていましたけれども、河野議長再選の流れは速かったと思います。

○河野 党幹部は、最初が一年九か月ですから、ちよつと短かったと思っただけでしょうが、替わっても不思議じゃなかったんです。

不思議なのは、小泉劇場で圧勝して、憲法改正に進むいいお膳立てができたのに、僕を再選したことです。

そのときに、タカ派の人は何も考えていなかったと思うけど、僕が二期目の議長になり、しかも横路さんが副議長になる。だから、国会は改憲の勢力の方が圧倒的に強かったときに、議長、副議長が護憲派という、僕がいつも言う政治の力関係が平衡感覚で、一方に寄らないで、改憲の勢力が強くなると、何となく片っ方の護憲勢力が重くなつてバランスを取れるというような感じがありましたね。

○紅谷 最初の議長就任の際には、森元総理が、当時、河野先生は総理にならなかつた唯一の総裁だということで尽力されたようですが、七十二代議長的时候は、私の記憶では、選挙翌日の昼に事務所に向つたら、さつき小泉さんから電話があつて、また議長をやつてほしいという連絡があつたという話でした。

○河野 そうだったかなあ。そうならば、政府の長が立法府の長の人事まで強い影響力を持つていたということが、とても不思議です。

○紅谷 そこは、議長を割り当てられる自民党内の人事ということなんだろうと思います。

解散前の小泉総理は、郵政法案に見られるようにトップダウン内閣で、しかも選挙で圧勝しました。そういう中で議長に就任されて、これから議会がどうなつていくのか、どうしてこうと思われたのでしょうか。

○河野 それはとても心配でした。

僕自身は、小泉総理は、議員年金のときに頭越しに立法府の議論に手をつ突つ込んできたし、何よりも解散権を行使したので、こんなことじゃいけないと思ひながら、本当に辛い思いで解散詔書を読みました。あの時は、議長でありながらも無力感を感じていました。

そういう気持ちを持ちながら再選され、一回目のときとは大分気分は違いました。その一方で、与党が三分の二以上の議席を取つていて、逆にこれからちよつとやそつとじゃ国会運営がうまくいかないのではないかという気持ちもあり、しつかりやらなくてはいけないという気持ちでした。

○紅谷 与党は圧倒的多数で、強行採決も辞さないという構えでした。一方の野党は、非常に数が少ないものですから無力感が目に見えて、余り抵抗らしい抵抗もできない状況の中、河野議長の存在が野党には頼みの綱であり、与党には高いハードルだったように見えました。

○河野 野党第一党の民主党が、選挙の敗北や年金未納問題なんかが出て、代表の責任論が出たりしてがたになりなりましたね。横路副議長だつて、野党の中で本当に総意で出てきた副議長候補ではなかつたかもしれないからね。

○紅谷 与党が圧倒的多数の状況で、小泉総理は、教育基本法や共謀罪の創設を内容とする組織犯罪処罰法等、野党の抵抗が強い法案を成立させようと最初は強引でしたが、河野議長がハードルになって、強行採決をしようにも簡単ではなかったというのが実際でした。

○河野 まあ、邪魔な存在だったかもしれないね。

教育基本法は、鈴木恒夫君が委員会の理事をしていて、僕は潰れるかとも思っていたけれども頑張ってまとめたんだと思うな。

だけれども、教育基本法を与党の強行採決でやるのはちよつとどうかなと思つたね。愛国心とかの内容だったからね。

○紅谷 教育基本法は、戦後六十年も経って時代に適応しないというのはあつたのですが、内容は愛国心だとか、家庭教育、親にも問題があるというものでした。

○河野 小泉さんは、郵政民営化法を成立させたけど、国に忠、親に孝の教育基本法は断念していたので、安倍内閣で採決したんだ。

○紅谷 小泉総理は郵政以外の法案は断念したり継続にして、柔軟な対応だったかと思ひます。

河野議長は、小泉総理に対して、与党の強行方針や答弁について注意的な発言をされました。

○河野 本会議で野党が再質問しても、小泉さんは前と同じという答弁で答えていなかったので、答弁はもつと丁寧にするようにと注意したりしましたね。

僕が議長のときの自民の国対委員長は、中川秀直、二階俊博、大島理森の三人で、中川さんと大島さんはしょっちゅう公邸に来ていたよね。二階さんは余り来なかった気がするな。

○紅谷 二階先生は、河野議長に呼ばれる前に手を打たれていましたね。

とにかく与党が強硬策を進めるに当たっては、河野議長が壁になつていたと思ひますね。

○河野 まあ、多少邪魔な方がよかつたのだろうね。

○紅谷 一方の野党は、数が非常に少ないものですから、現場での抵抗はあまりなく、議長に縋るといふ姿勢だったように見受けられました。

○河野 社会党がなくなつて、野党側に国会の業師みたいな人がほとんどいなくなつたんだね。だから、野党国対に手練手管というのあまりなかつたね。

僕に仲裁を頼んでおいて、国会の中での抵抗は限度があるということ、その時には街頭で演説をしているとか、国会の中じゃなく外でとなると、どうしようもないね。

○紅谷 小泉総理は一年で退陣して安倍総理に替わりますが、自民党は参議院選挙で大敗し、民主党が第一党になりました。

○河野 自民党立党以来の敗北だからね。

小泉さんは選挙で負けたわけではなく党則に則つて辞めるわけで、森さんは、後を誰にするかというので安倍さんか福田さんかと悩むんですよ。福田さんの方が年も上だし、政治的キャリアも長い。ただ、二人とも官房長官以外に大臣をやっていないんですよ。

安倍晋太郎さん、福田赳夫さんの両方にすごく義理があつて悩んだけど、福田さんがいち早く自分はやる気はないと言つたものだから、安倍さんになつたんです。

ただ、安倍さんは選挙で勝つたわけでもないし、党務、政務で十分なキャリアも無く、総理・総裁になつたわりには、相当無理を言つたんですね。だから周りが苦労したと思ひますね。

### 《後藤田正晴氏の逝去》

○佐々木〔衆議院事務局〕 議長在任中に、宮沢元総理とともに、

政治の師と言ってもいい存在だった後藤田正晴先生が亡くなられました。

政治の激動期にご一緒された後藤田先生との思い出は多いかと思えます。

○河野 後藤田さんは、僕は最初はタカ派の人だと思っていたら、中曽根内閣の官房長官として、連立の相手だけでも少数会派の科技庁長官の僕を、何回も官邸へ呼んで話を聞いてくれて、君が言っていることは分かるけれど今はそういう時期じゃないとか、今はそういうことを言っちゃいけないと説得してくれて、その時にこの人は立派な人だと思いました。

そういうことがあって、宮沢内閣で今度は僕が官房長官で、後藤田さんは法務大臣に選ばれた。それで、宮沢さんが訪米するときに、副総理の渡辺外務大臣が病気で倒れて武藤さんに替わる。それでアメリカ側の宮沢内閣の評価が、党内的に立場が弱い総理大臣だとなって評価が低くなると、それでは充分な話をしてくれないから、安定した内閣だということを示す必要があると考えたんです。それで、僕は宮沢さんに、内閣をきちんとして行かれた方がいいと思うので、例えば後藤田さんを副総理にしたらどうですか、渡辺副総理が辞めたから、後藤田副総理にして内閣をきちんと固め、党内的基盤が強くなったということにして行かれた方がいいと思うと話したんです。

宮沢さんは、ちょっと考えたけど、いいんじゃないかと思うけど後藤田さんが受けるかどうか、君が行ってこいと言われて、後藤田さんをお願いして引き受けてもらったんです。それが非常にうまくいって、党内や閣内でがたがたしたときに後藤田さんが抑えてくれたから、僕もすごく恩義を感じていました。

その後、後藤田さんは、僕が肝臓移植の手術をして松本の病院に入院していたときに見舞いに来てくれて、自分も頑張るけど後は頼

むぞと言われ、それが病氣療養中の僕のすごい支えになっていたんです。

僕が政治の世界へ入って、亡くなられてとても辛くショックを受けた一人は大平さんで、この人とは野党として闘っていたから敵の大將で亡くなった。その後では、後藤田さんと宮沢さん、それから田川さんと鯨岡さんでした。この五人の死は辛かった。その中でも、政治的には後藤田さんがきつかった。宮沢さんは引退されていたからね。後藤田さんは一応政界から引いておられたけれども、やはりいろいろ相談に乗ってくれていた時でした。

今の人たちは、辛いときに相談に乗ってくれる先輩がいないんじゃないかな。僕は、宮沢さんのところに行ったり後藤田さんのところに行ったりすると、いろいろなことを言ってくれたからありがたかった。

特に後藤田さんは、晩年はとにかく戦争反対で、すごく危機感を持っておられたからね。僕はもっとしっかり発言しろとか叱られたこともある。だから、亡くなられたのはショックが大きかったですね。

○紅谷 議長時代に後藤田先生、宮沢先生が亡くなり、少し前に鯨岡先生も亡くなりました。

○河野 みんな亡くなってしまうね。

### 《議長からの提案―公聴会の在り方等》

○紅谷 国会改革の一環で、長年の懸案だった公聴会の在り方が、河野議長の提案で与野党の歩み寄りが見られました。教育基本法の強行採決の後に開かれた議会制度協議会で、公聴会を採決の直前に行うのはいかなものかという問題提起をされました。

公聴会の開会については、昭和六十二年の予算委員会での売上税問題で、公聴会の開会が採決条件の争点になって大もめになり、それ以降は、与党は公聴会が終われば採決できる、野党は公聴会を阻止すれば採決できないという攻防が、二十年來続いてきました。

教育基本法審議の際も、採決当日の午前中に公聴会を開いて、午後には採決をしたということで、野党の国対委員長から河野議長に採決については広い意味で瑕疵があるという申し入れがありました。

○河野 僕は、公聴会が終わらなければ次へ進めない、終わりさえすれば次へ進めるとか、公聴会がそういう手続きに使われている。本来、公聴会というのは国民が直接的に議会の審議に参加するという大事な制度だから、きちっと意見を聞いた上で、議員が賛否の判断材料にしないではいけません。従って、公聴会を採決の当日に行うというのはいかなるものかと思うので、検討してくれと言ったんです。

○紅谷 それで与野党に共通の理解ができて、それからは、公聴会の開会が採決の日というようになるとはなくなり、改善されたと思います。

○河野 まあ、半歩というか、ちよつと進歩したということですね。

○紅谷 それから、もう一つ、河野議長が就任のときからおっしゃっていたのは、国会というのは開かれた国会でなくてはいけません。これは、日本国民だけではなく、国際的にも開かれていなくてはいけないということで、河野議長の提案で、本会議場に通訳ブースが設置されました。

○河野 僕はイギリスの本会議を傍聴して、我々にも参考になる議論をしているのを聞いて、つくづくそう思ったんですよ。

それで、主としてASEANの人たちが日本の議会を傍聴したときに、日本の国会の議論がどういう内容かということを彼らに理解してほしいというのと、もう一つは、国会議員が、自分の主張は国

際的に通用する議論かどうかということを考えてほしい。つまり、国内だけで通用して、外国から見ればかばかしいというような議論をしていては駄目だと思っただけです。国会を開かれたものにするということとは、みんなが知ることと同時に、聞かれても恥ずかしくないような議論をしてほしいということの両方の意味があつたんです。基本は大使館側で通訳は連れてきて、総理の演説や安保法制の議論とかを、本会議を傍聴に来た国の人に直接聞いてもらうということでした。

それは、外国から見ても自国の政策に関わっていて、例えば思いやり予算の議論など日本の議論で関心のあるものがあれば、そういうときに聞きに来る、聞きたいと思うニーズはあると思うんですね。コロナ禍で、対面じゃなくてオンラインで議論したりしているけれども、やはりテレビで見ているのとその現場に行くのとでは全然違いますからね。

○紅谷 今もブースは残っていますけれども、職員ですらあれが何なのか多分知らないと思います。

○河野 全く残念なことだ。

国会図書館長だった長尾さんの研究がもつと進んで、自動翻訳機というのが完全なものになれば、別に通訳がいなくても自動翻訳機が取り付けられれば、もう一度きちんと宣伝して、大使館や外国人の傍聴ができるかもしれないね。

○紅谷 そのためには、実のある議論をしなくてはいけないということですね。

○河野 それが刺激になって、外国人が聞いても実のある議論をするようになるといいんだけどね。

思えば進むけれども、なかなか現実はその簡単にはいかないと思いますね。

## 《教育基本法案、衆議院本会議で与党単独採決》

○紅谷 平成十七年九月のいわゆる郵政選挙で与党は圧勝し、小泉総理は郵政民営化法案を成立させた後、安倍官房長官を後継に指名して辞任されます。選挙から一年後でした。

小泉政権では、与野党が対立していた教育基本法や防衛庁の省への昇格法案等は強行採決を避けて継続審議としたので、安倍政権での取扱いが注目されました。

教育基本法は衆議院本会議で与党単独採決になりましたが、河野議長はどういう思いで臨んでいらしたのでしょうか。

○河野 僕は、教育基本法には二つ思いがあるんです。

一つは、僕が議員になった最初は文教族だったから、教育基本法問題というのはその頃からずっと気になっていました。議長なので何も言っていないけれど、自分としては、教育基本法の議論についてはとても心配をしていたんです。

もう一つは、教育特委の関係者が時々僕のところへ来て、とにかく強硬論が多くて大変ですという話をしていたことです。

教育基本法についていえば、僕の一貫した思いは、政治が教育の中身について口を出すのは適当でないと思っていました。政治は、教育にふさわしい環境をつくるために予算をつけるとかということを行うべきで、そこで何を教えるかということについて言うべきでない。それは教育の専門家が考えることだと僕は思っていました。引つ掛かるのは、愛国心とか道徳心とか教育でも特に心の問題に関するものです。個人的にはとても心配をしながら見ていたけれども、議長がそれを言う立場ではないから言わなかっただけで、心配をしていたのは事実なんです。

結局、かなり自民党の影響力が強い教育基本法になり、野党は強

く抵抗しました。圧倒的に与党が多かったから、野党は小さければ小さいほど反対は過激になるんですよ。だから、うまく収まってくればいいなと心配をしていました。

僕の経験からいって、例の大学紛争を収めるときの大学紛争臨時措置法が相当荒っぽい運営で強行採決をして、参議院はろくに審議しないで通した。そのときに、僕は教育の基本を決める法律の審議が、こんなことでもいいのかなと思って見ていた経験があるものだから、この教育基本法は強行採決は嫌だなど思っていたけれど、野党は本会議を欠席してしまいましたね。

○紅谷 この法案は、自民党が選挙に勝って小泉政権は圧倒的多数でしたが、強硬姿勢を貫きませんでした。

それは、河野議長が、与野党の対立が激しかった組織犯罪処罰法の与野の強行方針に対して「国会の様子が国民の一大関心事になっていて、自分は今の事態を憂慮している」と発言され、そのせいもあってか、与野が非常に抑制的、慎重になって、対立法案は全て継続になりました。

河野議長の発言が与党にとっては高いハードルになっていたと思います。

○河野 自覚していなかったけど、実際はそうだったかもしれない。とにかく、与野党の差が余りに大きくて、野党の質疑時間が物すごく短いですよね。特に少数野党の質疑時間が何分間じや本当に議論にならないと思っていました。

○紅谷 もう時効ですでお話しますと、当時の自民党国対は、二階国対委員長、坂本剛二国対代理でした。与野の強行方針はあるものの、河野議長がベルを押してくれるかどうか不安で、私はお二人とも委員長や理事で御一緒したのでよく呼ばれて、与野はこういう方針でいきたいとか、現場がこうしたいと言っているけれど、議長はベルを押してくれるかなと、私のところに探りを入れてこられ

るんです。

私は、法案の質疑で各党一巡もしていないのに議長がベルを押すことはありませんよと話したりしましたが、随分そういう相談を受けますね。

○河野 あれだけの議席差があれば、やろうと思えば何だってできたはずだけど、それがある程度収まってくれたというのは、二階国対委員長という強い政治力、指導力ある人が自制して現場を抑えていたからだろうね。

○紅谷 平成十八年九月に安倍内閣が発足した直後の臨時会で、教育基本法や防衛庁の省への昇格法は成立しますが、これは強行採決になりました。発足して数か月でしたが、早々に内閣不信任案が出されました。

翌年の平成十九年の常会は、七月には参議院選挙が決まっているので、野党としては当然ながら対決姿勢で臨み、それに対して与党は、強気一辺倒の国会運営で強行採決の連発でした。当時の新聞では、衆議院では強行採決が十四回あったと報じています。

一方の野党は、解任決議案や不信任決議案を八本出しました。与野党の泥仕合の中で、最後は河野議長不信任決議案まで出されてしまいました。

○河野 参議院は選挙を控えているから、強行採決というのは印象が悪くて選挙に影響するからと、参議院の自民党の方から、参議院は官邸の下請じゃない、という発言まであったほどでしたね。

委員会では審議をしている法案を、本会議で取り上げて中間報告という話が、官邸から聞こえてきたものだからそういう発言になったのだろうけれど、中間報告というのは乱暴だよな。

現場の委員会が進まないからだろうけど、野党が委員長で、それを取り上げたというのがほとんどで、涙の委員長報告とかがありましたよね。

大学紛争臨時措置法のときは、参議院へ持っていったのが会期末の二日前で、のっけに中間報告をやったのを見て、参議院は良識の府と言われる割には、結構強引な手法をとることがあると思つたね。

○紅谷 河野議長不信任決議案についてですが、厚生労働委員会で、委員長を羽交い締めにして委員長席から引き降り降ろした民主党の議員がいて、懲罰動議が出されました。懲罰委員長が民主党で、動議を与野党の話し合いがつかないという理由で扱わなかったら、与党が、委員長不信任動議を出して可決し、自民党の委員長代理を立てて懲罰動議を進めたということがありました。最終的には本会議で三十日の登院停止になるのですが、その過程で、河野議長が本会議のベルを押したのがけしからぬということで、民主党が河野議長の不信任決議案を出してきましたけれども、どう思われたでしょうか。

○河野 これは痛恨事だね。何で提出されたのか理由が全く理解できなかつた。

僕はアンフェアなことをしたつもりは全くなかつたし、第一、僕の気持ちは、全会一致で選ばれた議長が不信任を受けるようなことは絶対してはいかぬと思つていたから、それがいきなり不信任というので、何でこうなるのかと、とても残念な思いでした。

松野議運筆頭理事が議長不信任の趣旨弁明をやったけど、議長を不信任するというのは、腹が立ったから出しちゃうというのは、自制してほしかつた。

○紅谷 議長の権威を逆におとしめるものでした。最後は議長不信任という不本意な形で常会が終わり、参議院選挙に突入していきましたが、年金の記録問題があつて、自民党は惨敗して過半数を割り、民主党が第一党になりました。

○河野 選挙に入る前には、自民党は絶対勝つと新聞は言っていたのが、途中からどうも旗色がおかしいとなつて、開けてみたら惨敗。青木参議院議員会長と中川幹事長だけが責任を取って辞めて、総

裁は辞めないという、あり得ない責任の取り方ですよ。

橋本総理時代に参議院選挙に負けて、あれだって政権選択の選挙じゃないと言えれば通ったろうけれども、橋本君はすっぱり辞めましたよね。

そういう前例があるから、本当は総理が辞めないのはおかしかつたけれども、そういう声も出ない党になっていました。

### 《国会図書館長の人事》

○紅谷 河野議長の在任中に国立国会図書館長の人事がありました。従前からの図書館長の人選は、衆議院と参議院で交互に推薦することになっていて、ちょうど衆議院で推薦する順番でした。

昭和二十三年に国立国会図書館ができて、初代の図書館長には国務大臣から金森徳次郎さんが就任されて、十年余り務められました。その後はずっと衆参の事務総長経験者が交互に就いてきましたので、誰もが衆議院の事務総長経験者が就任するものと思っていました。当時の駒崎事務総長が河野議長に相談に行きましたら、ちよつと考えさせてほしいという返答で、結局は外部からの登用で進められますが、そこはどういうお気持ちで、どういうふうに進められたのでしょうか。

○河野 図書館長の人選については、前にも言ったように僕の議員生活のスタートが文教族だったということがあって、図書館行政というのとはとても大事だと思っていたのですが、国会図書館というのは他の図書館と全く違います。

国会図書館が最高の権威を持って、人材も資料も集めて国会にサービスするというのが第一義的な仕事であることはもちろんですが、国会図書館というものは国の最高の図書館であって、日本全国の図

書館とネットで結んで、日本全体の図書館の頂点にあるものでなければおかしいと、ずっと思っていたんです。

それで、駒崎事務総長からは谷前事務総長を推薦すると言われたけれども、谷さんは事務総長として相当長く勤められているが、図書館長として特別の抱負でもあるのかと聞いたんです。そうでなければ、もっと図書館行政に経験のある人がいないかと事務総長に言ったら、いませんし、探しようがないと言われたんです。

○紅谷 駒崎さんを弁護する意味でも、国会図書館の役割を追加して申し上げますと、国立国会図書館は、河野先生が言われるように全国の図書館の中の最高位であり、中央図書館という役割が一つ。もう一つが、国会に附属して立法機関を補佐するという機能の二つの役割を持っています。衆参の事務総長が今まで就いていたのは、立法機関を補佐するという観点に重きを置いていたわけで、この部分は図書館が非常に弱い部分でしたから、それですつと上手くやってきたという経緯なんだと思います。

○河野 確かに、主眼を置いた観点が違うから、事務総長も探しようがないんだよね。そこで自分で探すことにしたんだけど、数日にわたって頭を抱えた。それで、思いつくまま十人くらい名前を書き出し、なんとか三人に絞って直接電話をかけたんです。学者や哲学者、その三人目が長尾真さんでした。

長尾さんは、国会図書館に非常に興味があるけれども、今は情報通信研究機構の理事長をしているから、できないと言うんです。

そこで、総務省所管の団体だったので菅大臣に電話したら、本人がやると言うなら結構だと言ってくれました。

それで長尾さんと会って、初めましてと言ったら、いや、去年の日本国際賞の表彰式でお会いしましたと言うから。ますますこの人しかないと思ったんです。

長尾さんは京都にお住まいで、家族や住居の問題があると



たけど、どうしても言ったら、最後はお引き受けしますということになったんです。

○紅谷 長尾さんの人事は極秘裏に進めていましたので、私が京都のご自宅に何度か電話すると奥さんが出られて、宿舎のことなどを話すと、奥さんは必ずしも乗り気じゃなかったようでした。

○河野 確かにそうでした。しかし、長尾さんは全国図書館協会の会長をした経験があったし、何と言っても京都大学の総長だった人が図書館長になるというのは、国会図書館の権威を上げる意味でも相当意味があったと思うんです。

長尾さんは、電子図書館システムの研究者で、国際的にも通用する人でした。国際的なネットワークも彼が作ったし、それなりのことはやられたんじゃないですかね。

○紅谷 長尾さんの学者としての専門分野との関係もあったのでしようけれども、国会図書館と全国の図書館との連携の強化や海外の図書館との交流が盛んになって、非常に貢献されたと聞いています。一方で、やはり国会との関係がなかなか上手くいかなかった面はあったようです。

○河野 本人も苦手で全然やったことがないし、はじめは分からないと言っていましたよ。

○紅谷 当時、河野議長は、国会対応は長尾さんじゃなくて副館長以下がやればいいじゃないかとお話しされていましたが、図書館は国会との関係というのが一番弱くて苦手な部分でしたから、それをカバーしていたのが総経験者の図書館長でした。

自民党が野党になってからですが、図書館の予算を自民党が了承しないので、長尾さんはずっと廊下に立って野党理事を待っているんだと、おっしゃっていたのを思い出しますね。

○河野 長尾さんも、そういうのをやったことがないだろうからね。僕がきちっとフォローしなくちゃいけないかったんだらうけど。

そういう意味では長尾さんはご苦労されたんだらうけど、長尾さんのお人柄は、付き合ってみると非常にざっくばらんでいい人でした。それでいて、きちんとしているところはきちんとしていたからね。

○紅谷 長尾さんが退任された後は、図書館のOB、その後はお茶の水女子大学学長だった羽入佐和子さんが館長になり、今は図書館OBの吉永さんが館長です。私は、吉永館長とは旧知の仲なものですから、ざっくばらんに話を聞いたところ、長尾さんは、図書館行政に精通している上に、極めて常識的な人だったので、図書館にとっては大きなプラスになったと、率直な感想として話してくれました。

○河野 事務局には申し訳ない気持ちもあったけど、そう言ってもらえると判断に間違いは無かったと言ってもいいのだろうか。

○小田〔衆議院事務局〕 議会関係者以外から国立国会図書館長に起用したということで、図書館に対して当期待していた思いは達成されたのでしょうか。

○河野 国会図書館の成り立ちからも、仕事には国会に対するサービスがあるから、国会図書館長はなかなか大変な面があると思うんです。

だけれども、日本の図書館行政で図書館の経験者がトップに座るといえるのは、特に国際的なネットワークということになると適任者もいるだろうと思いますね。だから、そういう人には期待していると思うんです。

長尾さんは、電子化、データベース化して、何語でもアクセスできるということやすごい勢いでやった、ああいう画期的な国会図書館のアプローチの仕方というのは他の人にはなくて、恐らく何年か飛び越えてやったと思うんです。やはりそういうことをできる人がこれから先も出てこなくてはいいけない。

そのためには、単に図書館のOBだけではなかなかできないかもしれないから、いろいろな分野の人を探すという努力も一方でしておくことが大事だと思いますね。

図書館は苦勞していると思うけれども、これからも新しい問題にどう対応するかを考えなきゃいけないから、どこにそのスキルを磨く場があるのか分からないけれども、ますますプロが必要になってくると思いますね。

一方で、国会図書館の国会に対するサービスも非常に重要な仕事であることは間違いないから、それをやはり大事にしていかななくてははいけませんね。

## 《相次ぐ総理大臣の交代》

○紅谷 河野先生は議長に再選されて、平成十七年九月から二十一年七月までの四年近くの間、議長を務められました。

この間に、相次いで総理大臣が交代し、四人が総理になりました。最初の小泉総理は、自民党総裁の任期ということで、ほぼ一年で交代されました。安倍総理に替わったのが平成十八年九月でしたが一年で辞任。福田総理は十九年九月から一年。麻生総理は九月から翌年八月の総選挙まで、めまぐるしく総理が替わった四年間でした。

○河野 小泉さんは、自民党総裁の任期を終えたということで退陣して、そこで自民党の総裁選が行われた。この総裁選は、森派には福田さんと安倍さんがいて、加えて麻生さん、谷垣さんがいたけれども、福田さんが争いは好まないということで引いて三人の争いになって、安倍さんが総裁になり安倍内閣の誕生となった。

一年後の参議院選挙では自民党が大敗し、参議院の第一党を民主党に明け渡すという結果になってしまった。国会はねじれ状態にな

ったけど、この参議院選挙の敗北については、総理の責任についての議論はあったけど、中川幹事長と参議院の青木議員会長の二人が辞めて、総理は続投を表明したんです。

○紅谷 参議院選挙後の九月に臨時国会が召集されましたが、大混乱になりました。

召集日に安倍総理が所信の演説を行い、代表質問は一日置いてでしたが、開会直前に大島国対委員長が議長室に飛び込んで、何を言っているのか分からないくらいの慌てよう、総理が辞めると言っているので本会議を待つてほしいという話でした。

代表質問の本会議という場面で、非常に特異な出来事でしたけれども、当時を思い起こしていただきたいと思います。

○河野 とにかく、郵政選挙で衆議院は圧倒的多数を持っていて、与党は、何でも自分の提案が通るといような感じで常会を終えて、参議院選挙になりました。

安倍さんは体調が余りよくないとは聞いていたけど、辞めるというのは全然想像もしなかった。国会を召集して、所信表明を終えて代表質問ということで、議運の委員会も終わって本会議のベルを押しただけのところへ、大島さんが入って来ましたよね。

最初は、ベルを押すのはちょっと待ってください、そして本会議の時間を少しずらしてくださいと言っただよ。どうしてだと言ったら、なにか総理が辞めるとか言っている、ちょっと待ってくださいと言いなから、あちこち電話をかけたりしてばたばたしていた。

本当に急なことだから、とにかく何だかよく分からないので官邸へ電話をかけて、どうしたんだと言ったら、総理が辞意を漏らしているから今日の本会議は止めてくださいという話だった。

所信表明をやって、代表質問を受けなくて辞意を漏らすなんて、とんでもない話だと思いました。

所信表明のときには全く普通だったのに、何の予告もなくいきなり辞めるから、本会議はやらないでという話だからね。

とにかく、官邸のわがままというか、小泉さんの郵政解散にしてもこれにしても、全く自分の都合だけで何の事前の予告もなく事態が変わっていったって、正直、立法院は行政府に振り回されたという感じですよ。

だから、立法院の権威が全然ないんですね。それはやはり、立法院の議員にはもう少し自覚してもらわなければいけないし、議長としても何らかの発言とか所作があってもよかったのかもしれないけれども、理由が分からずに辞任すると言うんだからね。

○紅谷 安倍総理の辞任表明というのは、国会が召集されてすぐでしたから、次の総理が選ばれるまで二週間余りの空白ができて、国会は冒頭から何もできないという状況でした。

○河野 思い返すと、橋本内閣のときの参議院選挙でも負けて、責任をとって橋本総理は辞任されたんです。そして安倍内閣でも負けるわけですよ。自民党の政治の足場というのが相当ぐらぐらしていた。言い方を変えれば、政治というものが本当に信頼をされていない状況です。

僕は、議長としても議員としても最後の任期なんだけど、この約四年弱というのは、物すごく政治的な変動期でした。

非常に象徴的なのは、その任期中に後藤田さんが亡くなり、宮沢さんが亡くなり、いわゆる護憲保守の中核の人が次々と亡くなって、個人的に言うくと、私の精神的な支柱みたいなものがぼきぼきと折れ無くなっている時期です。

そういう時期に、総理大臣は次々替わる、閣僚も不祥事で次々と辞めるという全く政治的には安定感を欠いた状況なんです。その象徴が、やはり安倍さんの無責任な辞任という感じで受け取りました。それは確かに病気で、前から薬で抑えておられ過労が重なって急

になんたろうけど、やはり辞め方はよくない。びっくりする辞め方で、しかも辞任の理由も余りはつきりしない。

自民党は圧倒的多数で、政権が替わるといふことはないにしても、抱えていた政治的な課題はどうするのか、安倍さんは所信表明で、戦後レジームからの脱却という大きな命題を出しておきながら、それをどうするのかということについては何もしないで辞めてしまう。

結果として福田さんが後継になられたけど、相当政治的な主張が違うものだから、安倍さんの提起した問題はほとんど引き継がれないですよ。参議院選で負けているという事もあって、引き継げないという事態ですよ。

安倍さんが辞められたときは既にねじれ国会でしたよ。

○紅谷 参議院選挙でねじれ国会になってはいましたが、まだ安倍総理の時点では政策的な対立の場面はなく、ねじれで苦悩されるのは福田総理からですよ。

○河野 そうなんだよね。だから福田さんが引き継いだ途端にねじれの問題が出てきて、七転八倒して大連立なんていう話になったんだよね。

小沢さんが民主党の代表で、小沢さんは政権担当の意欲を持って積極的にいるいろいろやるけれど、他の人達はむしろ引いていて、政権に入るよりは、ねじれを活かして自分たちの主張を通し、与党側の主張をブロックするという態度でしたよね。

○紅谷 安倍総理に戻りますけれども、当時の自民党の幹事長は麻生さんでした。

麻生幹事長は、所信演説があった日の役員会が終わった後に、総理から辞意を聞いたとおっしゃっていて、その理由は、安倍総理が、自分には求心力がないと言われたとの報道がありました。

○河野 それがちょっと問題になって、安倍さん周辺からは、麻生にはめられたといううわさが流れて、一時は、安倍、麻生は非常に

険悪になった状況があった。安倍さんは、後で絶対そんなことはなかったと否定されるんじゃないかも、それもあってか、本来なら安倍さんが辞めたら幹事長が後継者になってもおかしくなかったけれども、麻生さんじゃなくて福田さんになるんですよ。

○紅谷 安倍総理の辞任は、自民と民主の国対委員長会談で協力を拒否されたので、辞めることを決意したということで、連立を組んでいた公明党の太田代表も全く知らなかったようです。

○河野 その後に辞任の会見をしているけど、それは辞めるといいう会見で、理由はそのときは余り言っていないけど、後から与謝野官房長官が、体調が悪いようだと行ったんじゃないですかね。本当に、全く突然で、数人の人しか知らなかった。

日頃からの情報交換や付き合いとか事前の根回しなどはよくないことだと言う人はいるけど、やはり円満に運営しようと思うと必要なことだと思いますね。

○紅谷 おっしゃるように、国会運営にあたっては、おのずと手順がありますので、順序立ててやらないとうまく進みませんから、経験を積んだ人の配置が求められると思います。

○河野 これまで多くの場合、田中派、経世会が中心になって国会運営を仕切っていたけど、そういう人、小沢さん達が野党へ出て行ったから、ぎくしゃくしたわけだね。

とにかく安倍さんの辞任には驚かされました。

○紅谷 自民党では、安倍総理辞任後に総裁選挙があって、福田総理になりますが、国会はこの間の二週間余りは開会中にもかかわらず、事実上の機能停止状態でした。議長としては、この状況をどうお感じになっていたのでしようか。

○河野 始まったばかりの国会が、自民党の都合で長期間開けないというのは、決して好ましいことではないですよ。

安倍さんの主張と福田さんの主張とは相当違うのですが、総理大

臣が替わったけど民意は聞いていない。

例えば、福田官房長官時代に、靖国神社に代わるべき施設を造つたらどうかと諮問して、有識者会議が答申を出したけれども、安倍副長官は徹底的に反対なんです。それで、最後は引き出しにしまつたまま今日まで目の目を見ていないんです。

福田さんは、恒久的に問題が処理できればいいという考えを持つておられた。それは福田さんのアジア外交、福田赳夫総理のときの福田ドクトリンというのはアジア外交の基礎ですから、それを継いでいる福田康夫官房長官の思いと、安倍副長官の思いとが全然違う。そんなに主張が違う人が、民意を問うこともなく自民党の都合で総裁選を行って総理が替わる。

ちよつと驚いたのは、安倍さんを総裁に支持した自民党の国会議員が、今度は平気で福田さんを支持する。どっちの主張を支持しているんだと言いたくなるような、百八十度とは言わないまでも、当面の問題で相当違った主張を平気で右から左に変わる。さらに、次は麻生だといってまた変わるわけだから、これでは本当に政権は理解されないかもしれないね。

国民はただ見ているだけで、何にも自分たちの主張なんて反映されない、そういう立法府になっているんですね。そこが一番、議長として、こんな事でもいいのかなと思っていました。

○紅谷 河野先生は、安倍さんのことは余りよく知らないとおっしゃっていました。福田先生とは懇意で、議長時代にも議長室に訪ねて来られていましたね。

○河野 福田さんとは大学が同窓でした。一年以上で、全然会ったこともなかったけど、早稲田の四年間はほとんど重なっていたらしい。それと、福田赳夫という人も、福田外務大臣不信任案のときに僕は最後まで猛烈にやってえらい叱られたけれども、外務大臣を辞められた後は随分かかわいられたんですよ。

宮沢内閣の官房長官時代に、福田さんが総理を辞めてから、サミットのOBが集まって賢人会議みたいなものをやられた。福田さんはその世話役を担当され、とても熱心にやられたんです。

そのOBサミットが終わって帰ってくる、福田さんの自宅に僕は呼ばれて、国際情勢というか国際社会の流れはこういうふうに流れているように思えるとか、よく聞かされたものです。

そんなことがあって、福田さんとは割と近かったんです。清和会の中でも福田さんの流れというのはちよつと違いましたし、今でも随分違うね。

○紅谷 福田内閣に替わって、ねじれの苦労が始まります。

○河野 福田さんが一番苦勞されたけれど、参議院選挙で負けた直後に福田さんに替わってれば、恐らく、もうちよつと野党と話し合えるような政策を述べていたかもしれません。

それで、小沢一郎さんと大連立構想というのをやって、それがまとまりかけたら、小沢さんの方が党内がまとまらなかったということになるから、更にややこしくなるんですよ。

○紅谷 福田総理時代のねじれでは、ガソリン税やテロ対策補給支援活動特措法、それから同意人事がありました。

○河野 一番考えさせられたのは同意人事でした。

事柄とすれば、ガソリン税や補給支援の法律の方が大問題なんだけれど、同意人事というのは、政権として人選して、本人の承諾をもらって、国会にかけたら否決されるということだから、御本人には物すごく申し訳ないことです。それが二度三度と繰り返されるわけだから。

○紅谷 同意人事は、主要なポストについては、国会に本人が来て所信を述べて質疑を受けるという形に改められました。あのやり方については、当事者をお白州に出して、それで同意しませんでしたとなると、国会がその人の人格を否定したかのように受け取られ

ねませんから、やり方としていかがかという意見がありました。

○河野 全くそういう感じですよ。あのやり方は、アメリカなんかでも、例えば重要な国の大使を任命するときなんかも議会に呼んだりするけど、今言われるように、やはりそれはそれなりのちゃんとしたルールというか節度があつて、出てくる本人は自分の自説をきちんと主張できるし、それに対していろいろ反論があつて議論して、それが否決されたとしても、それは別にその人を否定したということではないということがちゃんと分かっていますけど、日本の場合はそうじゃないんだよね。

○紅谷 最初にノーと言われたのが、この前オリンピックの事務総長をされていた武藤さんで、次が田波さん、大蔵省の事務次官経験者は駄目というような主張が野党から出ていました。

法律案の場合であれば、両院の意思の違いを調整する制度がありますが、同意人事の場合は、かつては会計検査院長等の役職で衆議院の優越規定があつたのを削除したりして、両院が一致しない限りは選任できないというシステムにしてしまいました。

○河野 やり方は複数を提案してどっちかにするとか、いろいろあると思うんですよ。それを、あのやり方をやっているんじゃないともならない。

あの当時は本当に気が重かった。恐らく候補になった人も嫌だったと思いますよ。個人に対しても気の毒だし、ああいうやり方が果たしていいだろうかと誰しも思つたと思います。

○紅谷 そういうこともあつてか、先ほども話がありました、福田総理と民主党の小沢代表との大連立構想が出てきます。

○河野 かつては、大平さんのように政策連合とか部分連合とかいうか、問題ごとに協力しようというやり方があつたし、いろいろなやり方があつたけれど、福田さんはもうそんなことをやっている状況ではなくて、大連立でなきや政治が動かなくなるというので相

当思い詰めていた。あれが駄目だったことで福田政治は瓦解したわけですよ。

○紅谷 大平総理の時は、パーシャル連合と言われていたと思いますが、小選挙区制になって組む相手の政党がなくなりましたから、それができなくなっていました。

○河野 そうですよ。あの政治改革というのは、政治はもつと白黒はつきりさせろということで、日本流のグレイゾーンを持った政治というのには否定的だったのです。

それでも公明党や共産党という従来からの政党の存在感があるのは、やはりそういう政党がないと歯車というのはうまく回らないんですよ。

僕が議員をやっている時代に、政治はもつとスピード感がなきゃいけないとか、権力を集中させないと物事が進まないとかいう議論があつて、なぜか野党が黙っていたんですが、権力を集中してスピード感を持たせたら、独裁みたいなことになっていく可能性は多分にあると僕は思っていたけど、平気でそれが通っていたんだよね。さらに、小選挙区制で白黒はつきりさせろだからね。

○紅谷 福田総理は、ねじれ国会の中、ガソリン税やテロ対策特措法の懸案について、再議決や両院議長のアッセン等で何とか乗り切るのですが、参議院は野党が多数ですから、福田総理の問責決議案が可決されたりして、最後は、御自分でも非常に辛かったというような言い方をされていました。

そして、忘れもしない九月一日、広島でのG8議長サミット前夜祭の時に、福田総理の辞意が伝わってきました。お聞きになったときの感想をお聞かせください。

○河野 G8の議長が、あの福田がと言つてびっくりしていたよね。前の晩は総理官邸と一緒に食事をしたわけだからね。それはとても和やかに食事をして、広島ではいい会議をとか言つて別れて、それ

で次の日に、前夜祭のテーブルに着いたところへ森喜朗さんから電話で第一報があつて、福田さんが辞めるという記者会見すると。ええと言つて本当に驚いた記憶があります。なぜという感じで、理由がよく呑み込めなかったですね。

確かに、本当に気の毒なほど苦労していたからね。それでも、一人で苦労しているんじゃないかと、自民党みんな苦労しているんだからと思つたけれども、やはり抱え込んでいたんですね。

福田総理の会見では、安倍さんは健康問題で辞めたけれども、自分はこのからの政治を考えた上で決断したと言われてたけど、まあ、福田さんらしい精一杯の皮肉だね。

○紅谷 これで翌日の朝刊の一面から、広島でのG8議長会議開催が消えてしまいました。

○河野 完全になくなつて、本当にあれは残念だったね。あそこまで随分みんなが苦労して、うまくいったと思つたんだけどまあ。○紅谷 当時は、安倍総理、福田総理と二代連続で政権の投げ出しというような言い方をされ、政治不信を助長するような辞め方が続きました。

○河野 そうですね。政権の投げ出しといえれば投げ出しだし、次の政権も民意を問わずに総理になるから、それがほぼ一年交替で総理が替わるし、閣僚も随分替わつたよね。

やはり総理のなり方がああいふ慌ただしいなり方、それから首班は総裁選で決まるから、選挙の論功行賞みたいなものも多少あったかもしれない。だから、やはり人選なんかでもちよつと違うと思うんですよ。

国民がつくっている政治基盤というものがもう本当に緩んで、政治に対する信頼が無くなるから、政治はぐちゃぐちゃだったんですよ。総理だけじゃなくて閣僚もそうだったからね。

日本がそんなことをしている間に世界は相当動いて、例えば、胡

錦濤が初めてアメリカのワシントンに公式訪問してブッシュ・胡錦濤会談。そうかと思うと、そのすぐ後で、北朝鮮の核実験がある。だから、日本がそんなことをやっている間の二〇〇八年前後というのは、世界は相当変革期というか変動期でしたね。

○森元〔衆議院事務局〕 その後の総裁選ですが、麻生さんが立候補されて、ほかに四人の候補者、与謝野さん、石原さん、小池さん、石破さんが立候補されましたが、この総裁選を、どう見ていらしたのでしょうか。

○河野 本命不在の総裁選、やや麻生有力ではあったけれども、みんながチャレンジしてもおかしくない総裁選ですよ。

何度も言うように、自民党の中の秩序というか党としての筋みたいなものが歪んで、著しく政治とか政権に対する信頼とか尊敬とかが、非常に重要なものだという認識がだんだん薄れてきていた。

これまでは、良い悪いは別として後継者がいつもいて、麻垣康三だとか、安竹宮とか、その前は三角大福中というふうに、党内でこの人たちが総裁になっていいと絞られて総裁選は争われていたけど、この頃から、次はこういう人がいいんじゃないかとは関係なく、私が一番いいんだと自分が思えば出るというふうになったんだね。

もちろん、それぞれの分野で正しい主張をしておられたし、それなりの政治的な実績もあったことは間違いないけど、全体をまとめてリーダーとしてふさわしいかどうかということになると、それはやはり個人個人の主張では駄目で、そこに選挙の意味があるわけですからね。だから、チャレンジされることはいいと思うけど、多くの人たちが認めるというのが大事だと思います。

○紅谷 四人の候補者では、麻生さんを除いては、派閥のリーダーではなかったこともあり、圧倒的な大差で麻生さんが総裁に選出されました。

○河野 派閥がだんだん自信を失ってきて、リーダーを出すという

ような集団でもないし、派閥のリーダー自身がトップを目指すという意思を持っていない。だから、もう誰でもいいみたいなことになってきたんでしょうね。

自民党の歴史は良くも悪くも派閥があつて、派閥がいいという時代もあるし駄目だと言っている時代もあるけど、派閥が重要で有効に働いている時代もある。一方で、弊害が出て自民党の人气が下がって派閥はやめようと言いつつ時期もある。最近では、派閥に群れようというのが増えてきているね。いいか悪いかはいろいろ議論があるけれど、それは時の流行みたいなものがあるね。

○紅谷 かつての派閥には政策を基本とした軸があつたと思いますが、今は派閥による主張の色分けができなくなつて、何を中心に集まっているのかわからないと言われていきます。

○河野 そうです。今はもう全然ないけれど、なかなか自民党の派閥というのはうまくできていましたよ。

自民党の政治というのは、一時は大蔵省が自民党政治をやっていたような時代もあつて、予算の配分権を持っていると一番強くて、とにかく予算が付くか付かないか、その前は、減税をしてもらえないかどうか、減税に対する陳情が非常に多かった時代もあるんです。それが選挙のプラスになつていた時代があつたからです。

そこで、今度は業界団体をまとめる。そして、それが自民党の政策に非常に影響を及ぼすなど、いろいろなやり方が繰り返されてきた。

○紅谷 麻生総理は平成二十年九月に総理に就任されますが、もうこの頃は、自民党内からも早期解散を望む声が強かつたですし、野党は、速やかな解散・総選挙を要求していた時期でした。麻生総理は、十月には解散というシナリオで進んでいたようでしたが、その後すぐにリーマン・ショックがあつてタイミングを失くしたと言われました。

○河野 そうそう、選挙管理内閣じゃないかとまで言われたけど、それどころじゃなくなってしまつて、その後も年末年始の解散という話もあったけど、その頃はもう支持率がかなり落ちて解散ができないで、任期いっぱいになったよね。

やはり、これも安倍政権下の参議院選の大敗というのが利いていて、自民党は選挙に自信がないから、できればやりたくないという気分もあったんですよ。野党は、参議院で勝ったから本気で選挙をやれと言っていたけど、社会党はずっと落ち目だし、民主党の中も相当複雑だったと思うね。

麻生総理も、解散前に党役員を替えて選挙に臨もうとしたけど、それもできず、最後は麻生降ろしみたいな話まで出てきて、もうあの頃は自民党にまったく軸がなかったですね。

僕は解散になったらそこで辞めるつもりでしたが、結局は完全に追い込まれて解散せざるを得なくなつてしまつたから、選挙は最悪の状況でやつて、誰もが落ちると心配していました。

### 《ねじれ国会における国会運営の在り方》

○紅谷 四年間で四人の総理が替わるという異常な政治状況の中で、国会運営の舵取りを担われた河野議長のご苦労を、お聞きしたいと思います。

平成十九年の参議院選挙で、自民党は大敗して野党の民主党が第一党になり、衆参で多数党が異なるいわゆるねじれ国会となります。ねじれ国会というのは、このときが初めてではなく、最初のねじれ国会は、平成元年に土井たか子社会党委員長が、山が動いたと言われた参議院選挙で、自民党が過半数に届かず、そのときに朝日新聞が使った、ねじれ国会という用語が、その後一般的になりました。

海部内閣の時代で、消費税やリクルート問題があつて自民党が逆風の頃でしたが、消費税もリクルート問題も、いわゆるパーシタル連合、自公民路線で乗り切つたというのがこの平成元年の国会でした。

その次が、平成十年の橋本総理の下での参議院選挙で、橋本総理と山崎政調会長の減税発言の不一致で自民党が大敗して、参議院が少数になりました。橋本総理が辞めて小淵総理に替わり、金融国会と言われたときですが、野党の法案を丸呑みして乗り切りました。その後は、ねじれ解消のために、自自連立、さらには自自公連立になつていったというのが過去のねじれでした。

○河野 僕の経験からいうと、自民党はこれまでも非常に低空飛行をしていたんですよ。一番与野党が接近したのは大平内閣のときです。大平内閣でもぎりぎりのところまで行つたけれど、なんとか過半数は持つていました。

大平さんという人は非常に謙虚で低姿勢で、野党の言い分を取り入れながらやる。しかも、田中派が国会対策を担当していたから、そこは上手に乗り切つていったわけです。

あの頃から大平さんは、地方議会なんかはみんな連合政治になつているよ、もう日本の政治の流れはそっちに向かっていると盛んに言つて、それが新自由クラブに伝わって色々話し合いなどして、非常に接近したんです。大平さんは実に上手にやられて乗り切りました。

その次は中曽根内閣で、選挙では無所属を入れて辛うじて過半数。新自由クラブと連立を組むことで辛うじて助かるというような低空飛行です。

自民党は、その頃から国民の支持は下がり続けて、せいぜい四割ぐらいしかない。そういう低空飛行をしながらも、国会対策なんかで乗り切つたけれども、もうそれができなくなつて、こういう事態



になるんですね。

竹下内閣もリクルート事件で潰れたときに、竹下派には後継者が全くいなくなつて、何とか後をやつてくれと頼んだのは伊東正義さんと坂田道太さんですが、この二人に断られた結果、宇野宗佑さんになるわけです。しかし、宇野内閣は二月余りで潰れて海部内閣になった。

もう自民党というのは、宇野さんに替わつた瞬間に、総理大臣候補として誰もが認めるような人はいなくなつたんです。海部内閣も、実質は金丸さんの独裁で権力の二重構造になつていたので、海部さんには解散権も何もない。海部さん自身の人気はあつたけど、その直前の宇野内閣の時の参議院選挙に負けて、衆参がねじれになっていました。

それで、決定的なねじれ解消は保守連合じゃなくて、保守連合とどうか対立する相手との連立をどうするかということになつていました。

昭和四十年代の後半から、自民党政治というのは、社会党の主張を相当取り入れて続いていたんです。そこは、社会党も国会対策がきちつとしていたから、主張は主張として呑ませ、野党としての立場で歯止めをかけるということができていたけど、自民党もだんだんわがままになつて、社会党的な政策を、特に外交とかは完全に拒否してタカ派的な主張がどんどん入ってくるから、やはり限界に来ていたんですね。

○紅谷 今のお話以外にも、政治改革法案の際も、衆参の意思の違いがあつて、その片方に河野先生がいらつしやいましたので、ねじれの場面に随分関わつてこられたと思います。河野議長時代のねじれは、どういうふうに臨んでいこうと思つていらしたのでしょうか。

○河野 あのとときは、参議院が江田議長になつて、江田さんとなら

話ができるんじゃないか、江田さんと話をして、衆議院で示される民意と参議院で示される民意がそんなに違うことはないよねと随分話をして、江田さんは非常に常識的な人でしたから分かつてくれたけど、なかなか民主党が強かつたね。

民主党は鳩山さんが幹事長で、衆議院ではおとなしいけれど、参議院へ行くとき過激な発言をするものだから、なかなかうまくいかない。小沢さんが後ろにいて、山岡国対委員長がとにかく挑発的な発言をするから、自民党もそうそう下がつていられないということでした。

自民党は伊吹幹事長が非常に理論派で、はっきりとした理論を展開されるから、それはそれでなかなか妥協が難しく、大島国対委員長が一人で苦労してましたよね。

○紅谷 おつしやるとおり、衆参の議長が話し合われて、両院議長のあつせんという形になるのは、やはり一つは、江田さんが参議院議長で、河野議長とは昔から関係がよかつたということ。もう一つは、衆議院が横路副議長で非常に協力的でしたので、衆参のトップの関係が非常によかつたのが大きな利点だつたかと思ひます。

○河野 そうでした。横路さんは社会党出身だつたけど、北海道知事なんかをやられて、最後は落とすところを考えなきゃいけないと分かつていてくれたから話は分かつてくれたけど、それを民主党に呑ませるのは、なかなか簡単にいかないところがありましたね。

もちろん、自民党の中にも不満はあつただらうけど、それは大島さんが大体ならしてくれていましたね。

○紅谷 ねじれ国会を経験されて、衆議院と参議院の意思の違いを克服するにはどうすればいいと感じられたでしょうか。

○河野 予算や条約のような優越規定が、法律や同意人事で新たに制定することが見込まれない以上、話し合いをしていくしかない。今

回も参議院議長の江田さんとは、衆議院の意思も民意、参議院の意思も民意、そうは言っても民意は一つなんだから、我々もよく話し合おうということになったんです。

○紅谷 話合いというのは修正協議もそうですし、両院協議会もそういう場です。再議決というのは、話合いが決裂した時の最終手段ということですね。

### 《ガソリン国会における両院議長あっせん》

○紅谷 衆参のねじれ解消というのは、根本的な解決は選挙でしょうが、それまでの間の対応策としては、政策ごとの合意や連立を組むことで今までは乗り切ってきました。

今回のねじれについて、福田総理は、民主党との大連立を組むことで解決しようとしたが失敗で、いよいよ本格的なねじれ国会のスタートになります。

ガソリン国会と言われる平成二十年の常会前の秋の臨時国会では、いわゆるテロ対策特別措置法で、五十七年ぶりに参議院で否決した法律案の再議決が行われました。

再議決は、両院の意思が異なる中で法案を成立させるための方策ですが、対立の深まりに加えて、衆議院の議決から参議院の否決までに六十日間必要ですから、国会の会期の長期化が伴います。

ガソリン国会が始まる常会は一月十八日召集ですが、その前の臨時会は、テロ対策特措法が前年の十一月に衆議院で可決され、会期延長した翌年の一月十一日によりやく再可決して成立しました。

○河野 これは、国会法が改正されて、常会の召集が十二月から一月になったから可能になったんですね。

○紅谷 そうです。平成四年に十二月召集から一月召集に変わりました。

した。政治改革法の際は、成立が平成六年一月二十九日で、法案の継続を考慮した最大限の延長で、常会は一日空けて一月三十一日の召集でした。

○河野 話に戻るけれども、ねじれ状態は安倍さんから福田さんに政権が渡ったその日からで、福田さんはそれで頭がいつぱいという感じだった。福田政権の発足は開会中だったから、大臣は問題のある人は替わったけれども、あとは安倍内閣から全部引き継いだんですね。

民主党はかさにかかってきているから、連立の話をしても対等の話にならないようでした。それがうまくいかなかった最大の理由だろうと思います。

○紅谷 福田総理は、臨時会を再議決等で乗り切り、常会は一月十八日に召集されました。民主党はこの国会をガソリン値下げ国会と命名して、与野党の対立が鮮明になりました。衆議院選挙から二年を経過していましたので、選挙を視野に入れた国会だったかと思えます。

○河野 小沢一郎さんは、ガソリンの値下げで勝負するというのが一番選挙で有利だということが分かっているから、ガソリン値下げ国会と命名して、ガソリンを値下げすることで国民にアピールしようという構想でした。一方、与党にしてみれば、ここで下げたら長期的な道路整備計画は全く白紙になるし、責任上、一旦値段が下がってもまた上げざるを得ないから、それで評判がすごく悪くなることは明らかなんだよね。

○紅谷 お話のとおり、ガソリンは一旦は値下がりますが、元に戻すのは間違いないわけで、国民生活が非常に混乱することが懸念されました。そういう状況の中、一月二十一日に、突然、自民党の伊吹幹事長と大島国対委員長が河野議長を議長公邸に訪ねて来られました。いわゆるつなぎ法案を出すという話で、三月三十一日で暫

定税率の期限が切れるので、つなぎ法案を出して一月中に通して、三月の年度末に再議決をして暫定税率を維持し、混乱を防ごうという内容でした。

まず、この話を聞かれたときの感想をお聞かせください。

○河野 これは印象的で、よく覚えていますよ。伊吹さんが与党幹事長としての責任を感じておられることはよく分かるけれど、つなぎ法案というのは与党に都合のいい法案ですから、このまま通るとは到底思えなかつたです。

確かに、ガソリンの値段が下がるというのはすごく耳触りがよく、与党の言う将来の計画、そして財源をどうするのかをよくよく考えれば簡単ではないというのは分かるけど、取りあえずガソリンが安くなるというので、支持は野党へ流れますよね。

与党の幹事長としては、そんなことになっては大変で、とんでもないことになるという責任感からだろうけれども、何とひとつ参議院選挙で大負けした後で、僕はこれは難しいと思って、現実問題としてそのとおりにいかどうか分からないから、大島国対委員長にそこは目くばせはしていたんですね。

○紅谷 法案は税率の期限を単純延長するという内容ですから、与党が力づくでいけば可能ですが、常会の入口で予算の審査に入る前ですから、大混乱が予想されました。

この話があった後の河野議長の動きは本当に早く、その日のうちに江田参議院議長に話をされ、翌日に衆参の正副議長の会談が行われました。

○河野 僕は、これは大混乱になるだろうと思ったんです。ただ、人の配置がとてよくて、参議院は江田議長で、衆議院は横路副議長だったから、割と話ができる人でした。

ところが、二人とも野党の中での立場がなかなか難しく、かえってあの人たちは板挟みになって御苦労をかけるかも分からないと思

いましたね。

だけれども、江田さんはとても真面目に受け止めてくれて、よく分かりますと言ってくれたんです。

○紅谷 江田議長とは、ねじれ国会の運営の在り方ということで話されましたが、伊吹幹事長が来られたその日のうちにつなぎ法案の話をされることは、私は、この段階で与党の手の内を明かしているのか、フライングじゃないかなと思いつながらその場にいましたが、そこはやはり信頼関係だったのでしょうか。

○河野 そうです。

とにかくねじれ状態ですから、野党の理解を得られなかったら何もできないから、野党に内緒で物事を進めようたつて進まないし、ちゃんと話をして、江田さんぐらいがそうだなと言わないものだから、全然話にならないと思つたんです。江田さんは、事柄はよく分かるけど難しいという反応でした。

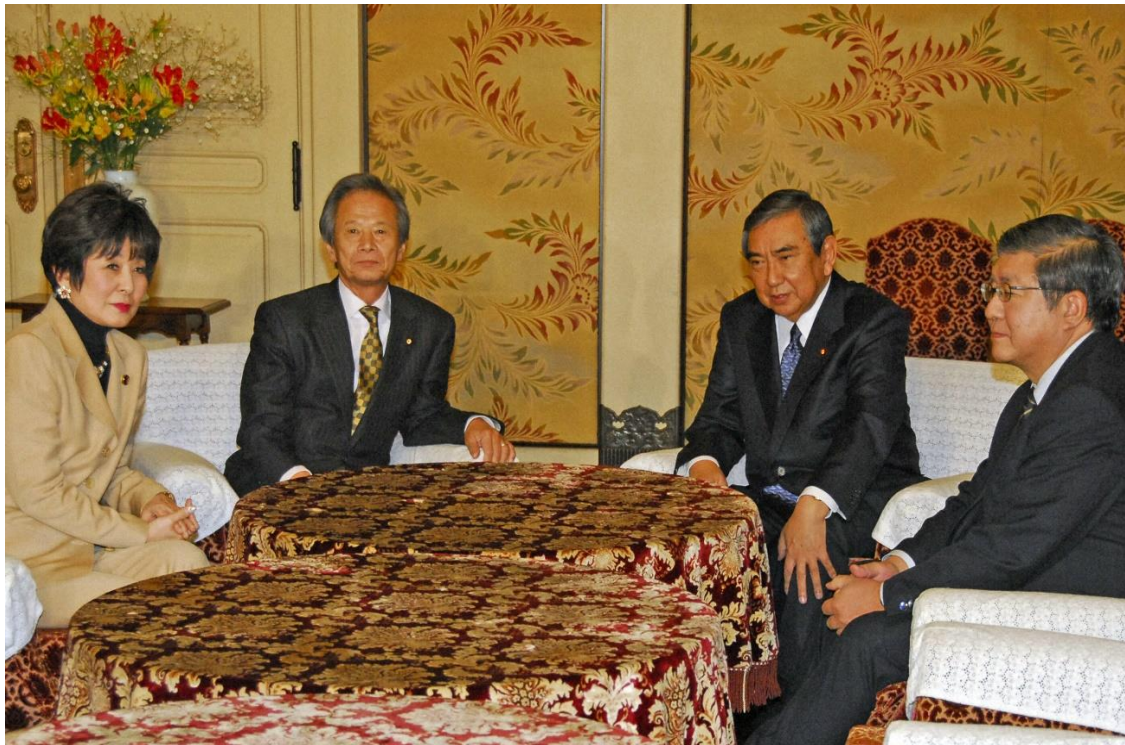
○紅谷 民主党は、小沢代表、鳩山幹事長という体制で、そこを説得できるかどうかでした。

○河野 それはなかなか難しいよね。代表と幹事長との間の意思疎通も簡単にいかないわけだからね。

民主党の中はネットワークがばらばらで、どこか話をすれば上手くいくのかよく分からなくて、鳩山幹事長が引き受けていっても駄目になるような党の組織だったから、なかなか難しかったですね。

とにかく、これは議長としてのあつせんというか調停になるだろうと最初から思っていたから、あらかじめいろいろな根回しというか、地均ししておく作業はしておかなければいけないと思つたから、事前にある程度話しておこうということだったんです。

○紅谷 そうしているうちに、与党は財務金融委員会と総務委員会をつなぎ法案を可決させます。ですから、ここで与党の強硬な方針が表に出てきて、いよいよ議長の出番となりますが、それは本会議



(提供:毎日新聞社)

が開かれるまでの間ですから、時間がありませんでした。

○河野 ここでにっちもさっちもいなくなつたので、いろいろ紆余曲折はあつたけれども、一月三十日に議長あつせんを出したんです。

あつせんは三項目あつて、一項目めは総予算と歳入法案については、公聴会とか参考人質疑を含む徹底した審議で、年度内に一定の結論を得るものとする、ということでした。

この一定の結論というフレーズがちよつと曖昧というか、野党側にしてみるとそれは別の解釈ができるから、もっと一定の結論というものの定義をはっきりさせておけばよかつたんだけど、余りはっきりさせると合意ができないから曖昧な部分を残したんだ。

○紅谷 後から江田議長もおっしゃっています、一定の結論というのは、採決ということでしょうけれども、結論を得るではなく、結論を得るものとするという表現にしました。

二項目めは、合意されたものについては修正協議を行うということでしたが、結局何も行われませんでした。

三項目めは、つなぎ法案を取り下げるので、これは翌日の委員会で撤回されました。

あつせんは三項目でしたが、これ以外に、先ほどお話があつた「年度内に一定の結論を得るといふのは、衆参両院で総予算及び歳入法案の従来の審査の慣例に従う趣旨」という口頭発言があり、これも含めての合意でした。

ですから、これがよく理解されなかつたのでしようが、だからこそ議長あつせんになったのかと思います。

○河野 そうですよ。

後からこれが問題になってくるけれど、一応あつせんをしたから国会審議が回り始めたからね。

○紅谷 翌日から予算委員会の審査も始まっていきました。

与野党が議長あつせんを受け入れましたが、そのときは、うまくいったと思われたのか、この先まだ不安だと思われたのか、どういう心境だったのでしょうか。

○河野 とにかく、民主党の中がちゃんとまとまってくれればいいなという思いでした。それから、自民党の中ももう少し熱心に話合いに臨んでくれればいいなと思っていて、ちょっと不安は感じていました。感じていたけれども、とにかくあつせんでき意をしたから、これでいいのかと思っていたら、何かぐずぐず言い続けたんですね。

○紅谷 議長あつせんの合意事項である修正協議が、全く進まないうちに二月二十九日になりました。

議長あつせんにある「総予算については年度内に一定の結論を得るものとする」、それに加えて「衆参両院で総予算については従来の審査の慣例に従う」とありますが、それは、予算が年度内の三月三十一日までに成立するというもので、そのための衆議院議決のタイムリミットが二月二十九日でした。

ですから、与党からすると、議長あつせんを担保するには二月二十九日に採決するしかないということでした。共産党はそれを理解していて、総予算の本会議採決に出席しました。

○河野 民主党は、その本会議がけしからぬということで、参議院の予算委員会がずっと空転したんですね。

議長あつせんをちゃんと理解できていなかったんだよね。野党は反発して、議長あつせんはもう反故になったと主張して、江田君までもが、年度内の採決はもう確約できないと言いつつ出た。

彼の立場からいうと、ああ言わざるを得なかったのかもしれないけど、あれは両院議長のあつせんだからね。

○紅谷 予算の採決や修正の協議に応じないとか、議長あつせんを守らないような動きが随分出ました。江田議長の発言も含めて、ど

ういうふうに感じていらしたのでしょうか。

○河野 江田議長にはもうちょっと頑張ってほしいと思いましたが、彼を支えてくれる母体が民主党内にもう少しあると思っていたんだけど、やはり民主党の中がとて難しい状況で、小沢さんたちは自分の思惑で動くから、参議院の議運、国対は議長を支えていないねあの頃の民主党の国対委員長が発言は大変だった。

○紅谷 衆議院の民主党の国対委員長が、自分は参議院も含めた国対委員長だと言っていて、みんな啞然としていました。

○小田〔衆議院事務局〕 ねじれ国会の下でのあつせんは大変厳しい局面だったと思いますが、この中で特に譲れなかったことと、あるいは譲ったことなどがありましたらお聞かせ願いたいと思います。

○河野 国会というのは、本来、話合いで合意を求めて進んでいく、あくまで話し合っていくべきです。

何か言ってくるたびに、もう一回話し合え、さらに話し合えと何度も何度も私は言ったけれど、だんだんかたくなになって話合いができなくなりましたね。一番難しかったのはそこです。

衆議院では僕ができるけれども、院をまたいで参議院の話まで僕が口を出すわけにはいかないから、そこはなかなか難しかったですね。だから、江田さんがとても大変だったろうと思いますね。

○紅谷 常会の入口の段階での議長あつせんで、法案の中身について事細かく言うわけにはいきませんので、包括的に、しかし、この国会の先までを見据えてのあつせんでした。

出口であれば、議長が、こうしなさいと言って、議長裁定でよかったかもしれないが、入口でしたから、議長あつせんに至るまでに、与野党の幹事長、国対委員長とどれだけ話したか分かりませんでしたね。

○河野 お正月早々から始めて、ずっと三月までだから、幹事長同士、国対委員長同士、政調会長同士でも話し合えと随分言ったけど、

年度末になっても参議院は予算が採決されない、歳入法案については全く手つかずだった。

○紅谷 議長あつせんは、もうほとんど反故にされたというような状況の中で、福田総理は三月二十七日に道路特定財源を廃止して一般財源とすると表明されました。

○河野 福田さんは随分譲ったんだよね。道路特定財源は、田中角栄さんが作って、自民党がずっと延々と守ってきた制度だから、自民党の中は大ブーイングだったわけですよ。総理がこの発言をして、民主党は、ガソリンの暫定税率が撤廃されたわけじゃないと言って、態度が変わらなかつたんだよね。

○紅谷 年度末になって、議長がもう一度動かれることになります。今度は、日切れ法案の具体的な取扱いになるものですから、議長があつせんだの裁定だのというわけにもいきませんので、議長は間を取り持つような形で動かれることになります。

○河野 そうそう、与野党の幹事長や国対委員長で話をしなさいよという場を設けて、道路以外の税法については年度末に処理することになったよね。僕は前の国会で、野党から議長不信任案を出されたけれど、そういう議長が、一年もたたないうちに、あつせんをするわけだよ。

○紅谷 河野議長が取り持った与野党合意は、道路特定財源に関わるもの以外の国民生活に係る年度末の処理案件でした。

○河野 これは、議長が場を作らないと、野党も賛成なのに通さないうのがたくさんあつたんですよ。だから、とにかく場を作って、整理をして、巻き込まれて潰されそうなものを全部通したということでした。

でも、ガソリンだけは駄目だった。

○紅谷 四月一日にガソリンの暫定税率が失効するというので、年度末から街中のガソリンスタンドは大混乱になりました。

○河野 一か所が下げると、そこへ全部殺到しちゃうからね。

しかも、下げるだけ下げても、五月一日にはまた値上げになるから、四月中のガソリンスタンドは大行列だったよね。

こういう混乱を避けたかったというのが、伊吹幹事長は与野の責任としてあつたし、それから、やはり田中角栄さんが道路特定財源の制度を、大蔵省を始め各省を相手に言わば一人で議員立法を作って制度化したわけだからね。

○紅谷 この議員立法の国会答弁は、田中先生が一手に引き受けて行っていたと聞いています。

○河野 一人で全部やつたんだ、すごいよね。

自民党の中ではその話がずっと伝わってきているから、幹事長は潰したら大変だと思つただろうね。

○紅谷 与野が予算と歳入法案を野党反対の中で採決したので、民主党が反発して議長あつせんを反故にする動きになりました。

○河野 最大の問題はここの判断で、その後の大混乱の本会議に繋がっていくわけですよ。

○紅谷 四月三十日に、歳入法案の地方税三法と国税二法を二月二十九日に衆議院で議決してから六十日が経過したので、衆議院がみなし否決をして再議決をするという本会議です。

それを阻止しようということで、民主党議員などが議場の周りに大挙して、河野議長の本会議場への入場を阻止しようとして大混乱になりました。

当時を振り返って、議長時代六年間の中でも忘れられない出来事だったと思いますけれども、感想をお聞かせください。

○河野 むちゃくちゃだったよね。

本会議場へは、いつもの議長応接室からは全く入れない。議長室の方からも出られない。議長次室の方は民主党の議員でいっぱいで大混乱していたので、全く身動きが取れなかった。



○紅谷 予想された事態ではあり、前日に、どうしたら本会議場に入れるかということいろいろ方策を練りましたが、議長の本会議場への入場ですから、奇策を取るわけにもいきませんでした。

○河野 そうでしたよね。屋根の上を跳んで歩くわけにもいかなかったけれど、院内というのは昔から構造は全然変わっていないし、ドアの場所だって昔のままですよ。

僕は先輩から話を聞いていたんですよ。昭和二十年代に、大蔵委員会を第十委員室でやっていたけど、おまえ、あそこはドアが一つしかないから、揉めたら絶対入れないし、出られないから、絶対使っちゃ駄目だと言われた。

○紅谷 当時は議事堂分館はなく、委員室は院内だけで。大蔵委員会が使っていたのは三階のエレベーター横の、今の第五委員室です。

○河野 僕も大蔵委員だったことがあるから、ああ、これだなと思いますよ。後ろからしか出入りできないから、強行採決をやったら委員長が逃げ出すドアがない。

○紅谷 今でこそ、分館がありますが、院内の三階は全部委員室でした。政党が控室を欲しいと言うので今は政党の控室になっています。今の自民党や維新、共産党の控室、あそこも委員室でした。

○河野 今の人は知らないだろうけど、第一委員室からずっと横の委員会の部屋はドアで繋がっているんですよ。議長室もそうで、結局、事務総長室から議運委員長室へ抜けて出たんだったよね。

議運の委員長室から出て、そこも民主党の議員はいて、ちよつと顔を出したら、あつちだあつちだつて言われて、こりやいかぬと思つていたら、タックルしてきた議員がいて、その後、議運の筆頭だった川端さんに連れられてお詫びに来たよね。

○紅谷 大混乱の国会でしたが、ねじれの状況を何とか話合い、話し合いというのは議長があっせんして乗り越えようということで、一旦は合意しましたが、各党の思惑が前面に出てしまいました。



(提供：毎日新聞社)

○河野 とにかく、この国会が一番大変な国会でしたね。

伊吹さんと大島さんが来られた一月から、議長あっせんできや通らないと思つていたんだよね。

僕にしてみれば、さっき言ったように、やはりあの惨敗した参議院選挙がちゃんと総括されていないところが一番問題で、あ

れを総括して自民党が反省すべきところは反省し、野党も、そういうことならこうだということになっていけば、話合いも少しは違っていたと思うんです。ただ、今言われるように、衆議院選挙も近い状況で思惑が働いて、どうしようもなかったね。

○紅谷 その後の選挙では、ガソリンの暫定税率を下げるというのが民主党のマニフェストでした。

○河野 選挙で民主党が勝って政権交代し、暫定税率は撤廃したけど、本則で上げることにしたから、ガソリンの値段は全く下がることとはなく、恒久的に上がったままだったよね。だから、このときの民主党の対応が選挙向けだったと言われてもやむを得ないだろうね。僕が議長をやっている、この問題と、もう一つは議員年金、あれだって、小泉さんが口を挟まなければもつといい解決になっていたと思うから、この二つの問題が心残りですね。

### 《被爆地広島においてG8下院議長会議を開催》

○紅谷 G8下院議長会議は、平成十四年に始まり日本での開催は平成二十年と決定していました。

日本での会議をどうするかについては、国際部を中心にいろいろ案を出しましたが、それまでのアメリカやイギリスは、議長の出身地での開催でしたので、国際部は、議長の地元の小田原に近い横浜や、一番簡単なのは東京ですが、京都も腹案で河野議長に話したのですが、議長から出されたのは広島でした。

広島と決められたのは、いつなのか。また、広島開催の思いというか狙いがあったと思いますので、そこら辺をお聞かせください。

○河野 議長会議をどこでやりますか、どうしますかと言われるけれども、開催場所を決めるのは、必ずしもその時に僕が議長でいる

かどうか分からない段階で、決めていいのか若干躊躇したけれども、日本でサミットの年にやるわけだから、サミットの開催地とも関係してくる。

はじめは、東京か京都でどうかという話でしたが、東京や京都というのは開催地としては何の主張もない。やる以上は何か主張があった方がいいと思っただけで、それなら核廃絶、軍縮をテーマに広島でやろうという話をしました。

しかし、議長会議の過去の経緯を見ると、軍縮とか核廃絶とかという政策をテーマにはしていないんですね。なるべく当たり障りのないテーマ、日本の前のドイツは危機管理、危機のときに国会はどうするかとか、議会の役割の強化をどうするか、そういう何かぼわつとした大きなテーマで、余り具体的な、特に政策上のテーマというのは、これをやったらイギリスは絶対乗ってこないとか、どこが駄目だとかということ、それは非常に難しいかもしれないということでした。

○紅谷 イギリスは、具体的な政策テーマについては、議長自身の意見は述べないということでした。

○河野 イギリスは一切言わないという前提だったからね。

しかし、平和ということについてはみんな意見は当然あるわけで、それで、サミットが北海道で環境問題、今になってみれば大変大きなテーマだけれども、あの頃では随分地味ですよ。サミットが北海道で環境問題なら、議長会議は広島で平和、軍縮問題をやろうと考えたんです。

それは、元をただせば、私がそれまでの四十年の議員生活で、この問題が政治家としての最大のテーマでした。最後は日本の国会議員として、この問題でどうしてもやりたいのと、G8各国の議会トップを広島に是非招きたいという思いがあったものだから、これはチャンスだ、このチャンスを使わない手はないと思うようになって、



僕が決めてしまえば、僕が議長じゃなくても広島でやることになるのだと思って言ったんです。どうなるかわからない状況下で、とにかく事務局はすぐよくやってくれました。

○紅谷 河野議長の広島開催への各国の根回しは、前年のベルリンでの会議で、いろいろ経緯があつて一泊二日の強行日程で行きました。翌年の会議の根回しのために行かれたようなもので、テーマは平和と軍縮を一つのテーマにしますよ、場所は広島で、時期は九月初旬という提案をされて、皆さん異存はなかったのですが、いかにせん、米国のペロシ議長が、ちょうど大統領選挙と重なる時期でしたから、そこが非常に気がかりだったのではないかと思います。

○河野 広島で軍縮をテーマにして、アメリカが欠席だったら意味のないものになってしまふので、ペロシ議長だけは来てほしいと思つて随分この根回しを丁寧をやつたんです。ドイツの議長からは、アメリカは必ずドタキャンがあるから最後まで念押しはやらなきゃ駄目だよと繰り返し言われて、直接間接にもペロシさんに話をして、彼女は必ず行くと言つていたけれど、広島での会議の前々日に大統領選挙の民主党大会があつて、その初日に彼女が演説するということになつて、駄目かなと思つて、あらためて大丈夫かと言つたら、大丈夫だと言つていた。

○紅谷 ペロシ議長は、民主党の大統領候補を宣言するのが私の役目だと言つていました。

○河野 あの時、ペロシ議長は私がヒラリー・クリントンと言いますればいいんだからと言つていたんですよ。ところが、大統領候補の指名選が始まつてみたら、クリントンじゃなくてオバマになつたんです。

それでまた、オバマと言えばそれで済むから大丈夫と言つて、その後議員の葬式に行くことになつたんです。結局、専用機だからぎりぎり間に合つたんですね。

○紅谷 広島に決まつてからも、お話のようにペロシ議長の出席の問題と、国内的にはひよつとすると、解散があるのではないかという不安がずつとあつたと思います。

○河野 それはそのとおりで、もしかしたら駄目かもしれないと思ひながらやつていましたね。

だけれども、まさか会議の前日に福田総理が辞めると言うとは思わなかつた。福田総理がもう一日でも二日でも我慢してくれば広島大会はもつと成功だったんだけれどもね。

○紅谷 広島に来ていた新聞記者が、あつという間にいなくなつて、会議当日の朝刊の一面が全く変わつてしまいましたからね。

○河野 あれはちよつと残念だったけれども仕方がない。

前日の夕食会で、席に着いているところへ森喜朗さんから電話があつて、福田さんが辞めると言つていて、これから記者会見だと言われて驚いた。隣にペロシさんが座つていたから、電話を切つて福田が辞めると言つたら、あの福田と言うから、そう、あの福田と。何でと言うけど、もう説明のしようがないよね。

○紅谷 広島での開催が決まつてから、スケジュールを含め、河野議長ご自身が何度か広島に行かれて随分力を入られていました。会場やホテルの選定、歓迎行事、さらには政府専用機の使用についても手配されました。

○河野 広島からこれを是非と言われて、ちよつと詰め込み過ぎだったけど、地元の立場もあるからね。

政府専用機は、とにかくみんなが一緒に乗ることが大事だからと、大きい専用機に乗つて、どういう座り方をするかなんというのはいくら決めなかつたら、もう自然にばたばたと座つて、いい感じで座りましたよ。広島の飛行場からホテルまでも一緒にバスに乗つて、とてもいい雰囲気でしたね。

○紅谷 政府専用機は議長も使えることになつてはいるのですが、使

ったことがなかったものですから、私も同乗させてもらって、いい経験でした。

○河野 僕が福田さんに夕食会をお願いしたら、九月一日は防災の日で、どこかへ行っているからできないと最初は言っていたけど、途中から何とかするといい、考えてみればあの辺からちよつと怪しかったのかも分からないな。それで総理公邸の日本間で和食、いい感じだったんだよね。

翌日は、明治記念館でお昼を食べて、それから宮中へ行って陛下のお茶会をしていただいて、その後専用機で広島へ行ったから、相だな詰め込みでしたね。

○紅谷 会議当日の九月二日は、会議に先立って、原爆死没者慰霊碑で献花を行った後、平和記念資料館の視察を行いました。慰霊碑の献花では、G8議長が手を繋いで献花に向かうという感動的な出来事がありました、そのときの感想をお聞きしたいと思います。

○河野 こういうメンバーが広島に行ったということ、僕を除けばEUを入れ外国から八人が来たけれど、広島に来たことがあるのはイタリアの議長だけでした。それだけに関心も高かったし、見たり聞いたりして受けたショックが物すごく大きかったようでした。

僕は、かねてから、核軍縮とか核廃絶、非核運動をずっとやってきて、どうしても各国の指導者に広島、長崎に来て自分の目で見たいという気持ちで非常に強くあつて、来てくれないかと言ってきたけど、なかなか来ないんです。特にアメリカは全然来ないし、ロシアも来ない。

それで、途中からもうこれは駄目だと思つて、自分で広島の前爆直後のフィルムを持ってモスクワへ行ったり、ワシントンへ行つて、自分でその映画を見せることなんかをやつてきたものだから、各国の議長が初めて広島へ来られるというのは、僕にはとても印象深いんですね。

ちよつと戻りますけれども、僕がたまたま議長のとくに日本で行く順番が来て、日本のどこでやるかということになって、僕は最初から広島と思つていたけれども、それはやはり事務的には相当難しい。宿泊場所や警備とかロジの問題、東京と広島の間移動をどうするかという問題もあつて、事務方には相当不安もあつたと思うけれども、どうしても広島でやりたいと言いました。外国の賛同が得られるのか、とりわけアメリカが賛成するかどうかというのがあつて、相前から打診をして根回しをしていましたが、最後までアメリカが来るかどうかというのが僕自身もとても不安でした。

広島と言つて、大統領選挙の年という特別な事情があつたとしても、アメリカが来られなければ、やはり見る人はアメリカはポイントしたというふうに見るだろうから、そうすると、むしろやることかマイナスになるかもしれないということもあつて、そこは最後までとても不安だったんです。大統領選挙もあるし党大会もあつて大丈夫かと繰り返し確認して、絶対大丈夫だと言つたので、最後は、やろうという決断をしました。

平和記念公園の中を歩いて記念碑へ行くまでの間、歩きながら話をしたら、そこで改めて分かったのだけど、被爆した一九四五年八月に生まれていたのは、僕とペロシさん、イギリスのマーティン議長が一歳と言っていました。あとはまだ生まれていないんだよね。だから、彼らから見ると、僕らとはちよつと違う意味での関心があつたんですよね。

それで、そういう関心を持つていてみたいなことを言いながら碑の前まで行つて、花束をささげて黙祷を、それは全く自然発生的に黙祷する形になって、そうしたら、ペロシが手を握つて、見たら議長全員の手が繋がつて握られていて、それがすごく印象的でした。

黙祷を終えて資料館へ行く途中、誰だったか若い議長が、原爆はどこに落ちたんだ、穴が空いているのかという話になって、いや、



それは爆弾のように地面に落ちたんじゃなく、上空で光って、その光の熱と風のエネルギーの放出で、被弾した場所はどこだというのは違うんだと言っても、なかなか理解ができないみたいだね。そんな話をしながら資料館へ行って話を聞いたりして、ここで全部、彼らは合点がいったわけです。

資料館に着くまでには、両側に小学生がずらっと並んでいて、それぞれの国の旗を持って声をかけたりしたものだから、みんなとても印象が強かったようでした。

資料館へ入って見始めたら、もうびっくりしているわけ。被爆者の高橋昭博さんが待っていてくれて、被爆のときの自分の体験を話されて、それを聞いているとみんながだんだん無口になって、最後は全然しゃべらない。ペロシさんは一人で感嘆していたね。

それから、会議場へ行って会議を始めたんです。

○紅谷 私は、慰霊碑の献花で、みんなが手をつないで一礼する光景を見て、会議が始まる前でしたけれども、もうこの会議は成功だったと思います。

○河野 それは本当にそうでしたね。

会議では、フランスのアコワイエ議長が基調演説を行い、なかなかいい演説でした。ペロシ議長は、サンフランシスコが選挙区で日系人からも相当支持をされているというようなことから、広島へ行くのを支持者はみんな喜んでいって、必ず広島に行きますよと言ってくれていたんです。

彼女は、民主党の中でオバマさんと非常に近かったようですね。だから、この会議でのペロシさんの発言というのは、その後のオバマさんのプラハ演説、このときのペロシさんのせりふとほとんど同じ言葉で演説をしました。あの演説はすごく画期的な演説だと思っただけで、あれはペロシさんが来たことと関係があると僕は思っています。



二〇二三年にG7サミットを広島で開催しますが、これもアメリカの世論が一朝一夕に広島でいいですよというほど簡単ではなく、やはり積み重ねがあつて広島でいいとなつたのでしようから、そういう意味でも、G8議長会議を広島で開催した意義というのは大きかつたと思いますね。

○河野 意味はあつたと思いますが、僕がとても残念なのは、あの後にオバマさんがブラハ演説を行つて、あの演説を聞いたときに、これはすごく画期的な演説だと僕は思つたけれども、すぐに知人から、この演説は絶対アメリカでは反発があつてすぐ潰されるよ、オバマさんはそれはね返すだけの力がないだろうから、理想を述べたけれども、それはあくまでも理想で、現実は全然違うということ知らされる可能性があると僕は言われてね。

アメリカは、やはり右派も強い国で反発はすごいだろうから、それに対して、軍縮を主張する我々はどう対抗するかということを考えたら、オバマ演説を擁護するというか、オバマ演説を担いでもつと進めようとするれば、アメリカだけでは駄目なので、つまり、国際世論が守らないとこれは押し倒されるから、オバマ演説をみんなが国際的に称賛して、オバマ演説はやはりすばらしいという国際世論というものが盛り上がる必要があると思つたんです。

その国際世論が盛り上がるための火つけ役は、日本が直ちにオバマ演説を絶賛して、日本から盛り上がっていかないと駄目だ。それで僕は、オバマ演説を支持する決議を国会でやったらどうかと思つて話をしたけれども、やはり日本でも右寄りの人達が強くて、それはできなかったんですよ。

野党はこれが一番だと言つていたけれど、野党にも力がなかつたんだね。もちろん国会の状況もありましたけれどもね。

そうしているうちに、北朝鮮が核実験をやつて、決議は核実験反対の決議になつてしまふわけです。結局、オバマ演説支持という

のは、決議の最後の方にちよろつと書かれただけで、ほとんどない状況。したがつて、もう国際世論も余り盛り上がりがないで、オバマ演説はそこまでになつちやうわけだよ。

オバマという人も、すい星のごとく出てきて、上院議員一期だけで大統領だから、やはり足場が余りなかつたんだろう。そういうしがらみがなかつたから、ああいう演説もできたのかも分からないね。○築山〔衆議院事務局〕 当時、確かに議長はかなり国会決議にこだわつておられました。

○河野 大分言つたけど駄目でした。それがとても心残りでした。オバマ演説までは僕が思っている以上にうまく進んだんですけれどもね。

○紅谷 とはいえ、河野議長だったから広島で会議が開催できたので、それは国会として外交上の成果を得ることができたということ。で、議会の代表である議長の画期的な行動だつたと思います。

○河野 だから、もう少し余裕があれば、東京で他のG8の議長達が国会議員と接触する機会、僕が主催した明治記念館のときに、もつと国会議員を呼べばよかつたかも知れないね、せめて議連の理事ぐらいはね。そうすれば、決議のときに幾らか違つたかも知りなかつたけど、そんな知恵は回らなかつたよ。

今にして思えば、あの昼食会にやはり議連のメンバーとか広島メンバーとか、思い切つて長崎ぐらゐまで声をかけるぐらゐにすれば良かったのだろうけど、その後、国会決議まで行くと、その頃は全然思つていないものね。

○紅谷 今にして思えばでしょうが、河野先生が引退されてしまつたから、国会決議までは難しかつたでしょうね。

○河野 そうだよ。だから、もう駄目だつたね。繋がりがなかつたよ。

議長を何年かやらせてもらった中で、これがやはり一番大きな出

来事でした。

このときに、衆議院の国際部が物すごく頑張ってくれたことに驚きましたよ。大抵みんな外務省がやっているのかと思ったら、そうじゃなくて国際部がやってくれていたんだよね。

○築山〔衆議院事務局〕 議長は気にされて外務省に手伝ってくれと官房長に言われたんですが、国際部が、頑張って自分たちでやりますと言いつつ切っていました。

○紅谷 G8議長会議は無事に終了し、政府専用機で東京に帰る人日本国内を回るといふ人、ペロシ議長は岩国基地から帰国しました。

○河野 ペロシさんが岩国へ行くと言つて、出発までホテルで二人でいろいろな話をして、そのときに、ハワイへ行かなきゃいけないという気持ちになったんです。ペロシさんが広島にわざわざ来て花を捧げてくれたから、やはり僕も真珠湾へ行って頭を下げなきゃいけないだろうと思つたんです。

○紅谷 河野議長が、その年の年末に、ハワイの真珠湾にあるアリゾナ記念館へ行かれたのは、ペロシさんへの返礼の意味合いだったのですね。

○河野 そういう気持ちもあつたんです。やはりアメリカから無理をして広島に来てくれたんでね。彼女は、後に僕が議員を辞めると言ったら、小田原のうちまでワシントンから電話をかけてきて、どうして辞めるんだと言われたこともありました。

真珠湾にあるアリゾナ記念館は、日本人の観光客はほとんど行かないですよ。行くのはちょっと大変で、海の上にあるから船でないと行けないんです。聞いてみたら、日本人がそこに行くのはアメリカ人にとって奇襲攻撃を受けたところに来るわけだから、結構微妙な感じらしいんだ。

私の父は随分昔に行ったという記録があつたけど、真珠湾で、船の手前でおじぎした程度かも分からない。僕が行つたときにはアリ

ゾナ記念館ができていたんです。アリゾナ記念館というのは「アリゾナ」という戦艦が沈んでいる上に浮いた記念館を造ったわけだよ。ね。

随分長く議長をやらせてもらったけれども、これも印象に残るものですよ。

### 《議長退任、政界引退》

○紅谷 河野先生の四十二年にわたる議員活動、議長として二十二年十九日の在職という非常に長い在任期間でしたが、平成二十一年七月に解散になり、引退されることになりました。

そこで、議長退任の話になりますが、選挙に出ない、議員生活を終えろと決められたのは、いつ頃だったのでしょうか。

○河野 それはいろいろなことを考えて、大分前から、最初は六十五になったら辞めようとか七十になったら辞めようか思っていたけれども、なかなかそうはいきませんでした。

議長を長く務めました、議長がどういふものかというのを一番教わつたのは、坂田道太という人でした。

坂田さんは、衆議院議長を辞められた後に、竹下総理がリクルート事件で失脚して後任がいらないんですよ。誰かいないかと探して白羽の矢を立てられたのは伊東正義さんだけでも、伊東正義さんは自分の健康状態から駄目だといって頑として受けません。そうしたら、僕が橋本龍太郎さんに呼ばれて、竹下さんから坂田さんに総理を受けてもらえないか誰か打診しろと言われたと。それで、当時、おまえが一番坂田さんから信頼があるから行けと言われたけど、これは河野洋平が行つた方がいいと思うので行つてくれないうかと言うんですよ。

それで、僕は坂田さんのところへ行つて、何とか総理を引き受けていただけないかと言つておりますがどうでしょうかと言つたら、君ね、僕は議長をやつた人間だよ、議長をやつた人間が総理なんかできるわけがないだろう。立法院の長をやつたんだから、行政府の長なんかやらない、お門違いだ、議長はそんな軽いものじゃないと言つてえらく怒られたんです。何で自分が怒られるのかなと思ひながら帰つてきて、駄目だったと言つたら、こっちはこっちで、おまえの説得が下手だからと言われて、立つ瀬がないよね。

結局、会津つぽと肥後もつこすは両方とも頑固で駄目だと言う。伊東さんも坂田さんも駄目で宇野宗佑さんになつたんです。

それで、議長のところでは言ひたかつたのは、宮沢さんが言つていゝるんだけど、僕が議員を辞めるまでの四十二年余りの間、自民党はずつと支持率が落ちてゐるんですよ。僕が議員の間に自民党の支持率が上がったことは一遍もないんじゃないかな。

昭和四十二年に初当選したときも、黒い霧解散と言われた自民党逆風下で、過半数は取つたけれど総得票率は五〇%を切つたんですよ。それ以来、自民党は得票率五〇%を超えたことはなく、たしかずつと減り続けているんです。

僕は、それは解散権なんかも影響があるんじゃないかと思つていたんです。余りに恣意的に解散して勝つてゐるから、あれは自民党の本来の支持で勝つてゐるんじゃないかと、テクニクで勝つてゐるだけで、本当に信頼を得て勝つてゐるんじゃない。議席の上では勝つてゐるけど、支持率は基本的に減り続けているわけで、自民党にとつてはまずいなと思つていました。

さらに、辞めるころに心配だったのは、選挙の投票率の低迷です。一時的に上がることはあるけれど、やはりずつと下がつてゐるんですよ。もう今や五〇%すれすれで、だから民主主義の選挙で五〇%しか投票率がないというのに、それで多数決の原理を使うというのは

無理だと思ひましたね。投票率をどうやつて上げるかということをもつと真剣に考えないと駄目なのに、為政者は、選挙の時期とかタイミングとかテクニクで選挙を勝とうとしてゐる姿が、やはり本当じゃないというふうに思ひました。そんなことを考へて、これはもう駄目だなと思ひましたね。

○紅谷 選挙に出られても、河野先生のポリシーというか矜持を持つて議員活動ができないということでしょうか。

政界を引退された後は、日中七団体の日本国際貿易促進協会の会長をされ、また、早稲田の特命教授をされて学生に政治の講義をされたりしましたけれども、引退後は政治との関わりを、どう考へていらしたのでしょうか。

○河野 辞めるときに、これで政治と一切縁を切るとは思つていませんでした。何らかの形で政治意識というものを高揚する、高揚まではないけれども、若者の政治意識だけは維持していく仕事をやりたと思つていたから、たまたま早稲田からやらないかと言われたので、これは渡りに船と思つて七、八年やりましたね。もつとやつてくれと言ふから、もう八十になつたからと言つて、最後は随分強く断つて辞めたんですけど、学生諸君と一緒に時間は結構楽しくやりました。早稲田の総長からは、少し学生を挑発して政治論をやるようにしてもらいたい、それはなかなか学者じゃできない話だからと言われてやつたんです。

○紅谷 先生に触発されてかどうか分かりませんが、衆議院の事務局に、そのゼミ生が入局してゐますから、政治に関心を持つたということではないでしょうか。

○河野 講義をして毎回のいろいろなことを言うのだけど、僕が、歴代内閣についての評価なんかをしようか、何内閣の評価から始めるかと言つたら、鳩山内閣と言ふんだよね。鳩山内閣と言われれば、僕は、鳩山一郎、日ソ交渉と思ふじゃない。それが学生の言つてい



るのは鳩山由紀夫内閣なんだよね。だから話が合わない事もあった。しばらく笑ったよ。そういうことがありましたね。

早稲田は留学生が結構多いものだから、中国人とか韓国人の学生も授業に来ていて、その都度はつと顔を上げて、おまえの話は違うじゃないかみたいな場面もありましたね。

○紅谷 国貿促は今でも会長をされていますが、中国という国状の表れかもしれませんが、その時々々の政治状況、日中関係によつて、出てくる要人のレベルが随分違うとか、如実に政治の現状が分かるというふうにおっしゃっていただけだと思いますが、どうなのでしょう。

○河野 国貿促というのは長い歴史があつて、戦後、日中関係を最初につないだのは経済、貿易なんです。国交もなければ何にもないところへ潜り込んで物を買ったり売ったりして、最初はそれこそ南京豆とか天津甘栗とかを買う。そんなちよつとしたものから始めたんです。大阪の商人がやったのが最初なんです。

まだ中国と国交正常化はしていない時から始まつて、はじめは経済界や役所のOBが会長をやつた後、石橋湛山さんが総理大臣をやつた後に国貿促の会長をやつた。そして、藤山愛一郎さん、櫻内義雄さん、橋本龍太郎さんがやり、僕なんです。

石橋さんや藤山さんがやっている頃は、国貿促を通さなければ中国貿易なんて全くなかつたんです。中国側は、アメリカと取引している三井、三菱のような商社とは取引しないんですよ。だから、みんなダメーをつくつて、中国貿易専門の子会社をつくつてやらせていました。

だから、その頃は、国貿促というのはその面では繁盛していたんですよ。それが国交が正常化して、もう誰でも中国と貿易ができるようになったら、三井も三菱も直接中国と貿易をするわけです。

今は、かつて国貿促を通して仕事をしていてお世話になったからという、昔のことを知っている律儀な人が、いまだに国貿促と付き

合つてくれているんです。それが結構いるんですよ。

だから、国貿促は僕が会長ですけど、副会長がすごいメンバーで、日立製作所、全日空、三菱UFJ銀行、三菱重工業、双日、森ビルもそうで、そういうところの前社長とか会長とかが副会長をやっているんです。その人達は昔のおつき合いがあるから、中国も律儀につき合うわけです。中国なんかは、今はもう国貿促なんかあまり関係ないけれど、昔井戸を掘った人だからやはり一番昔からやっているとだけで、国貿促が行きますというと、向こうはちやんと対応するんです。

毎年三月の全人代が終わると、直後に国貿促は訪中して、今年の全人代はこういう会議で、方針はこうですというのを一番先に国貿促に説明する。

本来からいえば、中国側は、商務部かなんかが出てきて説明すればいいんだけど、僕が行くものだから、中国共産党の政治局員が出てくる。李克強首相が出てくるときもあれば、汪洋政治協商会議主席だったり、ナンバースリーかフォーぐらいの人が出てきてくれる。

○紅谷 河野先生が会長を辞めるわけにはいきませぬね。

○河野 なかなか辞められないんだよ。

櫻内さんが九十歳ぐらいまでやつたんですよ。櫻内さんと呼ばれて、洋平君、俺も大分年を取つたから、後をやつてくれよと言われて、橋本龍太郎さんが総理を辞めた直後だから、やつたらどうと言つて橋本さんに替わつたけど、二年後に亡くなつて僕が引き受けなければ、後がないんだよ。

○當麻〔衆議院事務局〕 先生に続くような議員、ハト派の議員であるとか、一貫して護憲を主張されているような議員、あとは、中国に対しての見方にしても、親中派と言われる議員もいない今の状況を、どう見ていらっしゃるのでしょうか。



○河野 僕は、自分でも相当責任があると思っっているんです。人のことをいろいろ言うけれど、本来は、僕がもうちょっと後継者をちゃんとつくらなければいけなかったのに、後継者がいないんです。昔からどうもハト派と呼ばれる人は群れないんですよ。タカ派の人たちはすぐ青嵐会とか何とかと群れてやるけれども、ハト派はみんな一城のあるじみたいな顔をするからね。例えば宇都宮徳馬さんや古井喜実さんなどというのは、絶対一緒にやらないから集団が大きくなりません。

それでも、僕が議員生活をしている間は、藤山愛一郎先生が中国へ行って共同声明を出して帰ってきて、自民党の総務会で懲罰という話が出たら、藤山を守れというので自民党のハト派が一斉に集まったことがあるんです。そのときは三、四十人集まって、それだけ集まると相当気は強くなって、何言っっているんだとなるけれども、それが二人、三人になるとだんだん黙っちゃうんだ。

僕はいろいろやりましたけれども、例えば非核、核軍縮なんかを言っていると、本当に困るのは、おまえと共産党はどこが違うんだみたいなことをすぐ言われるし、中国問題を言っていると、社会党じゃないのかとか言われるしね。別に、自民党で非核を主張してなぜ悪いんだと僕は思っっていて、むしろ、自民党の中にそういうのがいるから、自民党は安心だし自民党の幅になるんだと思っっているんです。

日本と中国は、地理的にも経済的にも絶対に離れられないですよ。中国と離れたら生活ができなくなるから、何だかんだ言っただって、どこかでくっついていなきやならないんだけど、今のような状況だと、時の勢いで、中国のことをぼろくそに言っっていれば安心だみたいなことになるでしょう。

これは政界だけじゃなくて、国民性か何か知らないけれど、日本中が中国は嫌だと言うけれども、野菜だって豆腐だってみんな中国産のものを食べているのに、中国は嫌だと言うんだよね。もうちょ

っと冷静に考えてほしいと思っますね。

日本の文化の源は韓国、中国ですよ。大平正芳さんや宮沢喜一さんをすごいと思うのは、漢文や漢詩を教養として持っっていたんです。僕らからすると、ああいう教養があるのはすごいですよね。

だから、今の人達にはそういう教養が必要だと思っんですよ。もちろん、シェークスピアを読むことも必要だけれどもね。

○紅谷 二年余にわたるオーラルヒストリーのインタビューでしたが、もうこれがお伺いする最後の質問になるかと思っます。

今日（令和四年六月二十二日）は参議院選挙の公示日です。どのような構成になっていくのか、伝統ある政党の存続にも関わる選挙でもあります。今の政治をどう見ていらっしやるのか、望まれる政治の在り方はどういふものなのかをお聞きしたいと思っます。

○河野 とても心配しているのは、日本の国力が相当落ちてきていて、それと共に、国際政治の中における発言力も落ちてきていると思っんです。僕らが現役だった頃は、今よりは充分発言力もあつたし、国の勢いもありました。

それを一番如実に示しているのは政府開発援助、ODAです。僕が外務大臣だった頃は世界第二位で、その数年前は世界第一位の時もあつた。圧倒的に日本からの開発途上国に対する援助は多かつた。だから、開発途上国の日本に対する信頼はすごくありました。それと同時に、国際的な援助について日本が肩代わりするから、アメリカはだんだんと日本に後を頼むよという感じですね。国連に対する拠出金なんかも日本は一気に増えましたね。だから、おのずから日本は国際的に評価が高かつたんです。

ところが、ODAはどんどん下がって、今はかつての額の半分くらい。だから、もう日本は頼られないんですよ。国によっては、日本より中国に頼った方がいいということになるし、段々日本という国の発言力は下がった。今は、国際的に見ても、日本の利用価値と

どうか、日本が果たす役割が少なくなっているから、影響力は非常に小さくなってしまっていると思います。

ODAが圧倒的だった頃は、やはりアジアから日本に対する期待もあったし、アジアを代表する国は日本だ、アジアの問題といえば日本だった。ところが、今はもう、アジアの問題といえば中国、あるいは日本より韓国ということになっていて、必ずしも日本はアジアを代表する国ではなくなっています。そういうところがとても残念ですね。

それは、国会でいろいろ議論をされるんだから僕らが今言うべきことではないけれど、防衛費をGDPの二倍で五兆円にするという議論をするなら、なぜ外交力を倍にする努力をしないのかと僕は思いますね。

国連の中でも、恐らく日本の発言力は形式的にはあるけれども、説得力を持たなくなってしまうているんじゃないかと心配です。

それから、国内的には民主主義というものが本場にきちんと機能しているかどうかということですね。国民と政府との関係でいえば、それはやはり選挙の投票率です。これがどんどん落ちてきて、今にも五割を切りそうな現状。もつと下がってしまうというようなことになると、もう民主主義は成り立ちません。

それは、国民と政治との関係もそうだし、それから、政治の中で与党と野党の関係で、僕は、野党というのは、一義的にはきちんと政権を批判するというのが一番の役割だと思いますね。政権を批判しない野党というのは野党じゃないですよ。

だから、対案を出せばいいと言うけれども、いい案はなかなか出ないですよ。それよりも現在の政治状況を見ると、野党は、基本的に政府を批判する、打倒する努力をして倒さなきゃ駄目だと思っ倒すことによって、民主主義は進んでいくし活力も出てくる。それから、国民の関心も高まる。

それから、政党が政党としての体を成さなくなっていると思うね。僕は、いまだに、連立政権というのは当然あっていいと思うんです。つまり、選挙で過半数を取る政党がなければ、合従連衡で連立政権を作って、ただ、選挙になったら一遍その連立政権はばらばらになるべきです。選挙のときにはそれぞれの党が独自に公約を出して、選挙が終わったら、どれとどれと一緒にやっつけていけばいいかというのを改めて話し合えばいい。ドイツなんかはそうですよ。それを、選挙中もずっと連立している政党なんか選べないですね。

そうなる、自立した政党というのはなくなってしまうと思いますね。結果的に法案は一〇〇%成立します。

だから、野党には本当に野党魂というか、野党精神を発揮してもらいたいと願うばかりです。野党を応援する応援団は、昔のように総評があつて日教組なんかの組合とはいかないにしても、やはりそういう野党ぶりを示さないと支持は集まっていけないと思いますね。

野党が頑張らないと国会も国民も活性化しないからね。もちろん政府、与党はそれに対して横綱のように正々堂々と受けて立っていることが望まれる姿だと思いますね。

○紅谷 お話があつた野党の在り方、連立の在り方というのは、河野先生の自由クラブ時代の経験からで、国会という場合は、野党が質疑を通して、いかに政府と対峙するのか、審議が止まるぐらいの質疑をしないと新聞は書かないし、対案主義というのは、聞こえはいいけれども、要は同じ土俵に上って採決で否決されて終わりで成果はない、という長年の教訓かと思えます。

これが本当に最後になります。河野先生は議長に就任されるまで、委員会運営や国会対策については、あまり御経験がなかったものです。大臣を経験されて、外務省や官邸の役人との付き合いはあつたかと思えますけれども、衆議院事務局に対して、六年間の議長とし

ての職務を通してどういう印象を持たれたのか。さらに事務局に今後期待されることがありましたら、率直にお話ししていただき、我々衆議院事務局の道標とさせていただきますと思います。

○河野 本場に、僕は全く事務局を知らなかったんです。だから、議長室へ行ってみて、みんな何をしているのかなと本当は思っていたんだけど、後で分かってきたのは、やはり一つ会議をやるうと思つたら、資料と情報を集めて相応な根回しをしないと安心して会議はできないわけで、その裏方の努力というのはやはり大変なものだということを嫌というほど知らされました。

本会議を開くためにどのくらい努力しているかということは見聞きして分かってきたけれども、本会議だけじゃなくて各委員会でもそれぞれ大変な努力が要つて、しかも、立つてしゃべるのは議員だから、それを後ろから、ちゃんとしゃべってもらうだけの知識を与え、その指針を認識させる仕事に事務局は当たっている。議員というのは個性も強いし、それから自信過剰な人もたくさんいるから、事務局の苦労は多く、本当に大変な仕事をされていると思えましたね。

それと、議長は、いろいろなセレモニーに行つて挨拶をするけれど、その挨拶の原稿も、ちゃんと、国の姿勢、国の対策というものを踏まえた上で、議長の個性とか議長の個人的な主張みたいなものがそこはかとなく入っていて、それはもうびっくりしましたよ、途中から、自分が言うのを先に書かれているなど思うこともありましたね。

それは、幾ら議長の好みの主張があつたつて、やはり今の流れと全然違うわけにはいかないし、それから、国の主張、方針というものもあるから、その幅の中でどれだけ議長の個人的な主張とか見解を述べるかという、その幅の中でぎりぎりのことをやってみたら、途中で、本当に用意してもらつた原稿を読めばいいという感じで

したね。

○紅谷 今のお話は本当にありがたく、もつたないほどで、私は辞めたから言えるのですが、事務局も、全て議長や委員長に言われたから合わせるというのではなくて、事務局は事務局なりに議事運営に携わる立場の者としての考えがありますので、法規・先例に照らし、また与野党のそれぞれの方針、立場を考えるとこういう方向で進めた方がいいという方向性を持って、委員長や理事と向き合うわけです。

河野議長には、あまりその必要がありませんでしたけれども、今のお話は、我々の意図を見抜かれていたようで、今更ながら恐縮する限りです。

○河野 衆議院は、議長関係の日程は決まっているから、ちゃんと粛々とやってくれたから、物理的な間違いはほとんどゼロでしたね。それ以上に、事務局は国会運営の知識、知恵はもとより、与野党を問わず国会の生の情報や、こうなるんじゃないかという見識を持っていて、厚みが違うなというのはつくづく感じました。それはもつと議員のみならず記者も活用すればいいのにと思いましたね。

○紅谷 過分なお褒めのお言葉を賜りありがとうございます。河野議長のオーラルヒストリーを通して、議長のあり方に留まらず、国会としてのあり方まで振り返って考えることができましたように思います。多くの人に読んでもらつて、これからの議会政治の発展の一助にできれば幸いです。

○河野 議長に就任したのは六十六歳でしたが、今はもう八十五歳になり、記憶もやや曖昧で拙い話だったかもしれないけれども、これが議長として残る記憶の最後のものとして、集大成のつもりで話をさせてもらいました。

ありがとうございます。